

① 自分史 人生 生きてきた路

1	ああ懐かしき青春の わがアルト・ハイデルベルグ	郷原 副由	H 4・12
2	私の歩いた道	西木戸 衛	H 10・6
3	アンカーのいない駅伝ランナー	山下卯一郎	S 61・4
4	花咲く小径	満生 はま	H 4・5
5	我が一代の記	持丸 鉄身	H 7・7
6	自分の半生史	甲木 正亮	H 7・6
7	我がハイカイ、我がタンカ	安河内政光	H 15・6
8	山の湧き水	酒見ナミエ	H 8・2
9	我が人生	佐宗 秀吉	H 15・10
10	私だけが知っている私のノートから	平嶋忠太郎	H 4・7
11	福岡県政三十年	古賀 哲也	H 3・4
12	限りなき目標に向かって	金納 学	S 57・6
13	豊かなる岡	中島 勲	H 15・12
14	おふくろの味	横溝フサヨ	S 60・
15	喜寿あぶりだし	平嶋忠太郎	H 7・6
16	敏夫と共に	河野 雅子	S 59・1
17	飛形山上なで観音の記	吉原 善吾	H 5・1
18	自分史マイウェイ	西江 和子	H 8・
19	螢雪遥かなり	内山 末吉	H 9・3
20	回想録	大住 榊	H 3・2
21	古稀の歩み	古賀 哲也	H 15・1
22	よーら書かさんな	平嶋忠太郎	H 11・12
23	忘れ得ぬ思い出	やひめ文庫	H 7・8
24	心の玉手箱	やひめ文庫	H 5・9

25	私の生涯	松尾 新七	H 3・7
26	恩師の米寿私共の喜寿 祝賀記念誌	昭 六 会	H 6・4
27	九十二年間のメッセージ	北原 政雄	H 15・3
28	蟻塔 -不惑号-	丸山 英太	S 55・11
29	私の卒後五十年史	といち会	H 3. 5
30	人生八十余年夢まぼろしと 過ぎし流れのつれづれに	蒲池 清己	H 16・6
31	父を温ねて三千里 野田孝太郎の生涯とその周辺の世界	野田 多賢	H 15・11
32	黒木家の人々	黒木 政斗	H 13・11
33	金婚式をむかえて	梅本 瞳	H 7・
34	私は接ぎ木だった -町長三期の回顧録-	末安 良行	H 11・2
35	夢のピクチャー -野口朝加遺作集-	野口朝加遺作集を出版する会	H 9・9
36	故人の追想回顧	野崎 政夫	H 9・9
37	和而不同人-下川八二追慕集	刊行世話人会	S 61・5
38	物々好感	松田 久彦	S 60・6
39	笑顔と共に	草場宇良子	H 8・9
40	結婚六十五年亡妻との思い出	山口 政次	H 8・12
41	土龍の欠伸 もぐらのあくび	郷田 敏男	S 58・1
42	光のように -澤ミツコ姉追悼記念集-	沢 正雄	S 53・11
43	心の散歩道	牛島 幸七	S 53・5
44	潮騒の記	石井 竹乃	S 53・2
45	美しい生活を拓く	秋山 好明	H 7・9
46	私の人生探求	秋山 好明	S 63・9
47	海に近い家	野庭由恵子	H 15・11
48	花の小径	松尾 薫	H 7・5
49	自然と文化	山下 功	H 10・6

50	道しるべ	中島 梧桐	H 1・10
51	ふたば	近本 光夫	H 6・
52	弥蘇葉	〃	
53	寄生木（やどりぎ）	山口 昌登	H 16・4
54	美有香抄	下川 久枝	
55	美有香抄二号	下川 久枝	H 14・12
56	職人が奉仕をする時	山口 昌登	H 15・
57	懐古	〃	H 16・
58	古稀・明徳の季節	平嶋忠太郎	S 62・10
59	たんがくの証言	〃	H 14・11
60	自由日記	山浦 欣一	S 27・12
61	日記帖	〃	S 28・12
62	はたちの記	〃	S 30・10
63	古いハンカチ	〃	H 15・9
64	光と影と	深町 浩男	S 48・6
65	わが魂の遍歴	増田 陸郎	S 52・12
66	父の遺稿	高橋甲四郎	H 13・8
67	ハローマイベイビー	石橋 芳恵	H 15・11
68	死と向き合って	井上 寿代	H 12・4
69	筆おもむくままにあれ是	大坪 国夫	H 1・8
70	走頭無路	末安 良行	H 8・4
71	私の人生辞書	秋山 好明	S 55・3
72	私の人生参考書	秋山 好明	S 62・3
73	セレベスの海底から	笠原 美代	H 16・10
74	ストレイ・シープ	山口 博	H 8・10
75	郷愁の富野が丘	中村 十生	S 46・12
76	物識り狂	植村 勝明	H 14・12

77	逆転バカ社長	栢野 克己	H 16・1
78	ガス燈	中島 敏彦	S 51・8
79	日本縦断ひとり旅	北村 辰也	H 8・4
80	初春を謳う	早川眞吾編	H 9・8
81	リベラルにいまを生きる	早川眞吾編	H 1・9
82	わたしの童話集	山田 信代	H 11・3
83	余生を楽しく	山口 昌登	H 16・
84	雑木林	黒木 三郎	H 6・11
85	四葉のクローバー	田中 博編	H 2・4
86	見てるかお父さんを	大津 賢司	H 14・5
87	花々と星々と	犬養 道子	S 45・1
88	小さな灯	清水 晃	H 10・4
89	紙魚の足跡	中村 亀蔵	S 35・6
90	法の花ごころ	湯川 久子	H 2・5
91	瞬間に燃える	永井 進	S 58・4
92	年々去来の花	湯川 久子	H 7・5
93	名前を探る旅	中村 尚樹	H 12・8
94	てんさん回顧録	横溝 薫	S 59・4
95	17 音の青春	神奈川大学	H 12・3
96	王子の山物語	横溝 薫	S 56・10
97	邪馬台国日出る国の本当の話	原田 青夜	H 16・12
98	わが半生の記	寺崎 幸男	S 58・10
99	酒づくりと人づくり	木下 茂	H 6・12
100	持ち味一路	北島 豊	H 3・11
101	病跡学・史学叢談	王丸 勇	S 56・4
102	仏桑華	郷田 豊	S 46・12
103	邂逅	〃	S 48・5

104	続うちの子にかぎって	田中 忠	S 54・1
105	マイロード、自立へ	富田美穂子	H 13・11
106	アジア回廊	甲斐巳八郎	H 8・11
107	祖国を戦場にされて	根本百合子	H 12・7
108	少年時代	ジミー・カーター	H 15・8
109	町は消えていた	田辺 恭一	H 13・9
110	アメリカで英語について考えた	宮地 六美	H 2・5
111	私のつづり方	野中 延子	H 11・12
112	思い出の日記帳	室園 照子	H 12・3
113	川向うの団欒	田辺 恭一	H 6・2
114	空のおばさん	田熊 正子	H 2・4
115	絵を描く俘虜	宮崎 静夫	H 11・7
116	上海より上海へ	麻生 徹男	H 5・8
117	十字架から芬陀利華へ	ジャン・エラクル	H 4・9
118	時流に流されないで	池田 俊彦	H 16・8
119	さあ、前を向いて	木村 悦子	H 5・11
120	妻からの愛の宿題	上野 韶彦	H 16・7
121	日韓共生への道	安光 浩	H 15・6
122	なにか変だ。ぼくは狂っているのかな？	田中つゆ子	H 16・8
123	おばあさんの山里日記	佐々木 章	H 10・5
124	大正ロマンの影曳いて	清水 照子	H 8・12
125	風聲	山下 英雄	H 11・1
126	生前葬	古家 紀克	H 14・2
127	日田、三本松そしておばあちゃん	佐藤 準一	S 63・7
128	台湾一周旅行記	春田 文子	H 3・
129	吾が運を回想して	安達 英二	H 7・8
130	残照	山下千代寿	S 59・3

131	ある学者の軌跡	田中 定	S 57・1
132	長針だけの時計	原田 八重	S 60・8
133	朝子生命のかけ橋となって	間澤 洋一	H 11・7
134	さよならのあとに	大野 勝彦	H 6・3
135	ローン・ハート・マウンテン	エステル石郷	H 4・8
136	ぼくの村は戦場だった	田熊 正子	H 13・3
137	二十歳への提言	板坂 博之	S 56・1
138	昭和林業私史	宇江 敏勝	S 63・5
139	七夕の里	岩間 静子	H 16・8
140	寄宿舎の思い出集	福岡女学院	H 15・5
141	吾が生涯の記録	古賀 慶二	H 3・8
142	先祖考	児玉 囃昭	H 16・10
143	湯村貫之遺稿追想	福井 健夫	S 54・5
144	或る人生 - 上代琢代を偲ぶ -	上代 令子	H 5・12
145	続余生を楽しく	山口 昌登	H 16・12
146	土泥棒	山本 源太	H 2・1
147	自分を諦められずに	森 さなえ	H 13・1
148	ラジオの絆		H 12・8
149	どろんこ人生	竹井 広太	S 63・12
150	「小さな自分史」～私の10代～	国民文化祭	H 16・10
151	テーマは“希望”	笹木 千鈴	H 14・7
152	母の言いぶん	高森 和子	S 61・11
153	へそものがたり	〃	S 62・6
154	いろりばた	西田 正雄	S 57・8
155	人生と念仏	寺山 文融	H 17・1
156	命生る	樋口安癸次	H 16・12
157	六歳、槍ヶ岳に登る	虻川 圭實	H 14・8

158	久遠の鼓動 母さんみてて、生きるから	橘 佐久子	H 15・11
159	向日葵ひとすじ四十年	原口 酉男	H 9・12
160	遠い夢	吉富 徳	H 1・12
161	泣いても笑ってもまたあした	堀江 悦子	H 17・4
162	浦野隆夫の野球人生	浦野隆太郎編	H 16・12
163	介護記録 家族のきずな	末次 鎮衣	H 15・8
164	癌告知のあとで	鈴木 章子	H 1・1
165	なに人のあなた	神戸 瞳	H 14・10
166	私の趣味	田所 敏明	H 5・10
167	旅・旅行・そしてツアー	〃	S60・6
168	あしあと	古賀 次夫	H 2・10
169	ゆうな咲く島	鎌田 ヨシ	H 11・1
170	私は情婦	塩田須美子	H 15・12
171	よみがえる生命	向坊 弘道	H 6・8
172	ようらの記	綾小路 黎	H 8・7
173	生のあかし	山内 白葉	H 10・3
174	白血病の息子が教えてくれた医者的心	丹羽 鞆負	H 10・6
175	おれたちの落日	倉坂 葉子	S56・12
176	夢追いかけて	河合 純一	H 12・7
177	ホップの花は恋の花	諸岡 和彦	H 12・11
178	古老の百一話	賀谷 燦爾	H 7・7
179	意識の流れ	田池 留吉	H 16・12
180	団七踊り	佐塔豊淑凰	H 5・2
181	言葉のプレゼント	ユ ウ	H 15・12
182	私のヤケアトロジー	内田 順子	H 15・9
183	ガンよ！おごるなかれ	田村 誠一	H 8・2
184	最後の博徒 波谷守之の半生	正延 哲士	S59・1

185	続・最後の博徒	正延 哲士	S59・12
186	生きて帰りたい	森田 尚	H 15・8
187	新・ありらの歌	志賀喜美子	S53・12
188	死んでも生きている いのちの証し	菅原 茂	H 9・8
189	わが青春に「食い」なし	高橋甲四郎	H 17・5
190	大統領謝って下さい!	野田 皓一	H 15・11
191	心に光を求めて	日本失明傷痍軍人会	H 12・6
192	グスタレヤン放浪記	野間 大寒	H 10・7
193	風雪に耐えて	大谷 和雄	H 6・10
194	空からのらくがき	瀬戸真知子	H 7・4
195	飛びまわりスペイン	田中 直子	H 6・11
196	無敵	田井中圭一	H 16・12
197	八十路を越えて	渡辺 繁子	H 5・2
198	わすれな草	内田 正子	H 16・10
199	渡満の青春記	中島 重行	H 14・6
200	私の軌跡	具嶋太三郎	H 4・6
201	成る	鷲巣 弘	S62・10
202	助けられくぐり抜けた八十年	小野サト工	H 15・11
203	あしたふく風	吉田麻由美	H 13・6
204	合気道に導かれて 但求	庄田 幸生	H 15・4
205	南中ソーランの真実	欠野アズ紗	H 14・3
206	過ぎ去りし日々に	杉浦みな子	S63・4
207	三無事件	宇都宮 忠	H 14・12
208	自分史 いのち輝いて	楠本 利夫	H 5・7
209	雨森芳州	呉 満	H 16・11
210	いのちをつないで	賀久 はつ	H 12・2
211	桜色の最終章	塩田 博	H 15・6

212	風の廻廊	渡辺 斌	H 11・4
213	下駄ばき ICU	小柳 哲也	H 2・2
214	故郷に帰りたい	武村 淳	H 13・7
215	白線帽のうた	南 史一	H 12・12
216	アメリカ説法の旅	向坊 弘道	H 12・4
217	老尚麗	昭 四 会	H 10・10
218	余燼 - さようなら国鉄	田中 静治	S62・3
219	二十年目の返済	湯川 久子	H 12・11
220	鮎の四季 II	大谷 鮎子	H 14・5
221	由無し事	藤島 哲夫	
222	朝鮮のジャンヌダルク論介	呉 満	H 14・5
223	絆の新井田川	若宮 由松	H 15・5
224	イスタンブールの再会	大川 欣輝	H 11・10
225	やる気を育てる教育	井上 秀夫	H 4・1
226	50歳からまた始めた山登り	谷本 蟬丸	H 7・10
227	恋あざみ	堂園 徳子	H 3・10
228	四国歩き遍路の記	喜久本朝正	H 6・6
229	ある被爆者の戦後史	小峰 秀孝	H 9・1
230	ハンドル人生世相つれづれ	蛭田 清	H 10・11
231	倒産から軌跡の復活劇	野間 直彦	H 15・12
232	千虚、一実にかかず (続)	土肥 孝治	H 14・4
233	「姥捨て伝説」はなかった	古田 武彦	H 14・7
234	幸せに俺たちだって生きている	山本 進	H 15・1
235	チベットわが回想の10年 活仏	水原 渭江	H 16・6
236	愛と哀しみを越えて	伊藤 孝	S63・9
237	持っていたんだこんな楽器 口笛	もく まさあき	H 16・12
238	あんま人生泣き笑い	前中 敬三	H 4・3

239	阪本流あべこべ塾	阪本 晴子	H 14・12
240	ヤクトリ稼業は勝ち組商売	大牟禮光雄	H 11・1
241	ガンに冒された妻への鎮魂記	鷹野 三治	H 9・2
242	衣から食の竜平へ	田辺 正義	H 13・3
243	いのちの流れ	柳瀬 敏幸	S63・8
244	豆つぶ先生の放課後	瓜生 圭子	H 7・12
245	四月の雪	森田 道子	H 5・6
246	続・巴里ぶらり	島村佳代子	H 8・12
247	こころ思うままに	杉浦みな子	H 7・4
248	雪月花抄	劉 連花	H 11・5
249	母の青春	小長谷照子	H 12・3
250	我が半生の記	滝野 義雄	H 3・7
251	人生はパーミリオンとブルーの混じり合い	福山 清隆	H 16・12
252	夜学生とてんやわんや人生	渋谷 哲三	H 8・5
253	東パキスタンの大地に挑む	川路賢一郎	H 16・12
254	喜積が奇跡を呼ぶ	松田三恵子	H 16・4
255	ピンチ脱出の心理学	堀部 武司	H 17・1
256	生かされて生きる	松井 光江	H 12・3
257	百日紅	金田 太市	H 10・3
258	バブルがどうした！	三好 誠	H 11・6
259	神社とともに	〃	H 16・8
260	どこまでわかるヤマタイ国	〃	H 16・7
261	勝てる人は一握り	長澤 宏行	H 10・10
262	白杖エッセイ わが心の風景	松本 昌三	H 5・5
263	恵によって生かされる	正村 真次	H 12・4
264	信仰に国境なし	長澤久美子	H 15・12
265	遙かなる北の星空	董 熙豹	H 15・12

266	何でも撮ってやろう	武本 俊文	H 12・7
267	人に愛され走りつづけて七十余年	中岡 順了	H 13・7
268	おじいちゃん戦争のことを教えて	中條 高德	H 10・12
269	南十字に夢は尽きず	渡辺 要三	H 10・3
270	後に続く真の日本人へ	梯 禮一郎	H 13・10
271	わが青春	若松小夜子	H 10・12
272	窓の外は曇り空	江口ムツ子	H 17・5
273	持ち味一路	北島 豊	
274	山に向って	小畑 吉秋	H 2・6
275	清風求道	松鶴 潔	H 4・8
276	河童群像を求めて	暮安 翠	H 17・3
277	農地法と闘って四十年	榎井 恒義	H 5・7
278	回想余滴	井手 勝美	H 16・9
279	創ってきたビルメンテナンス	今井 義和	H 9・7
280	いつ死ぬかわからないから	小林 清子	H 14・12
281	私の歩いた道	阿部 逸郎	H 5・1
282	風に吹かれて	久賀 征哉	H 12・5
283	藜よ、ありがとう、そして、さようなら	田中 清子	H 7・5
284	清風求道	松鶴 潔	H 4・5
285	人生 浮雲の如し	渡辺 公典	H 14・12
286	自分史	林 繁郷	H 12・12
287	病気と私	田所 敏明	H 17・5
288	自分史	上田 銀治	H 16・11
289	幾山河	井出 定之	H 13・7
290	おうちがだんだん遠くなる	横田 進	H 15・6
291	神の慈しみの島ティモール	亀崎 善江	H 15・12
292	旅立ちのボストン	関野 陽	H 15・12

293	怒涛の人生	高橋 利彰	H 16・12
294	生きるってすばらしい	田原 米子	S57・2
295	堀内良平の生涯 富士を拓く	塩田 道夫	H 6・9
296	人生の万華鏡	小川 勝男	H 12・3
297	小原菁々子遺文集花鳥佛心		H 14・11
298	揺れた灯―天草便り―	馬場和加子	H 12・8
299	私のエッセイ	平嶋忠太郎	S 48・10
300	うにと私	藤野 幸平	S 51・11
301	下駄ばきぶらたん	富田 義弘	S 51・11
302	きものみち	加藤 花子	S 51・2
303	つれづれの旅	山下千代寿	S 63・3
304	掃きだめの露	平嶋忠太郎	S 56・10
305	私のアメリカ日記	田中 節子	S 57・1
306	還暦までの筆の跡	山田 一巳	S 63・4
307	農協運動四十年	家宇治 博	S 59・10
308	言いたい放題	山田 喜彦	S 60・3
309	傘寿好日	山下千代寿	S 60・10
310	思い出の料理集	横溝フサエ	S 60・4
311	乳房よかえっておいで	玉谷 直実	H 4・11
312	画集 由布岳	加藤田 務	S 63・9
313	我が人生に悔いなし	藤田耕一郎	H 15・1
314	農協経営十ヶ年の体験	蒲池 正雄	H 1・11
315	私の心の旅路	堀下 繁雄	S 50・4
316	夢は2001	吉富 徳	H 13・9
317	〃 2003	〃	H 15・6
318	心の波に浮かぶもの	平島 市次	S 36・8
319	百歳を迎えて	高木 正實	H 5・12

320	酔人回顧録	壇 健二郎	H 17・2
321	水明書院主人文集	三原 温	S 60・1
322	マコの初恋	山浦 欣一	H 17・6
323	ゆうすげの花	今木 恭子	
324	書いてまた消すごはんの便り	河村 秀敏	H 9・7
325	泣いても笑ってもまたあした	堀江 悦子	
326	田中八千男追想集		
327	青春白秋三十年有余	杉原 剛介	
328	厳冬の旅	陶山よし子	H 16・9
329	いま命輝いて	野尻千穂子	
330	通りゃんせ	中島 恵子	
331	久遠の鼓動	橘 佐久子	
332	インカの謎に惹かれて	渡辺 要三	
333	欧州七ヶ国に旅して	〃	
334	僕のごころの窓は110センチ	伊藤 正史	
335	花子のつぶやき	柿添 花子	H 17・3
336	良妻賢母	手島 貞夫	
337	吾輩は六法全書である	〃	
338	一陣の風	長田 一臣	
339	随筆集まなざし	濱田 蔵人	
340	竜太日記	小倉 一郎	H 17・3
341	八水先生行状記	平田 善作	
342	いのちの証し	菅原 茂	
343	人恋うごころ	前川 静子	
344	花いちもんめ	藤田三保子	
345	おおきに	碓 久義	H 2・3
346	広報マンのつぶやき	下田 高大	

347	飛翔	内田 玲子	H 5・7
348	自分史 風化を見つめて	渡辺 要三	
349	落陽	山口 昌登	
350	点字	〃	
351	父母の心・私の歩み	手嶋 貞夫	
352	病氣と私	田所 敏明	
353	いのちの流れ	柳瀬 敏幸	
354	続・医業の片すみで	弥永 耕一	H 11・3
355	今浦島（随筆集）	原田 喜示	
356	生かされたいのち燃やして	來須 富子	
357	いつかの少年	小瀬 一峻	
358	寄宿舎の思い出集	山下 征代	
359	和して流れず	成松 正隆	
360	金子岩三伝	金子 厚男	
361	大溪専先生の生涯	大谷 和雄	
362	俺は開業医	中島 敏彦	H 7・8
363	耐風雪燦人生	古賀 杉夫	H 9・7
364	母の心そのままに	秋森 房子	H 8・11
365	すりごま半世記	鬼崎 接世	H 10・5
366	しづかの海	市川紫都香	H 17・7
367	山のかなた ある医学徒の戦後	鶴澤 春生	H 3・1
368	あやとりの詩	水間真由美	S 56・9
369	おばあさんの山里日記	椎葉クニ子・佐々木章	H 10・5
370	青の残照	氏原三千代	H 16・10
371	直腸の切断	寺田健一郎	S 60・2
372	和して流れず	都築 貞枝 聞書	S 61・3
373	大分の女たち	古庄ゆき子	H 17・9

374	熱く激しく	松岡弘則 語り	H 17・10
375	逆かぐや姫	山川 敦子	H 12・11
376	命限りある日まで	御手洗鯛右	H 12・2
377	ご縁と運と辛抱と	谷脇 源資	H 14・7
378	自分を生きるために	津村 節子	H 3・10
379	絵かきの小休止	寺田健一郎	S 61・3
380	おさの音	松岡 幾男	H 1・3
381	モルヒネはシャーベットで	波多江伸子	H 7・7
382	図書館人生五十年	木村 秀明	H 10・10
383	森を創る	鈴木 明雄	H 7・4
384	熱禱 (いのり)	森永 誠也	H 18・3
385	タラフトンテン	田中 有二	H 18・3
386	死に損のうて	石原 宜子	H 17・10
387	灯が点った	園田 信子	H 14・6
388	わが人生に悔いなし	石井 勲	H 11・8
389	あしあと	古賀 次夫	H 2・10
390	あなた達を産んでよかった	松尾キヌ工	H 6・10
391	三等院長のメモ	三原 七郎	S 34・1
392	からたち	町野 博	S 54・9
393	続からたち	町野 博	S 57・12
394	中学明善在学当時の思い出	南 熊太	S 48・11
395	康ちゃん言行録	安元 康時	H 13・5
396	少女昌恵紅皿エッセイ	川島 昌恵	H 18・3
397	リトル・ボーイ	世良田 元	H 18・2
398	井口保画集	井口 保	H 18・4
399	走頭無路	末安 良行	H 8・4
400	人生史	藤島 美子	H 11・1

401	私は接ぎ木だった	未安 良行	H 11・2
402	ラーメン一代	原野ツタ子	H 11・10
403	大地が友だち	馬場 久夫	H 12・11
404	小林真一物語	堺 孝幸	H 13・8
405	あなたとわたしの人生誌	武藤 和平方 月足美智子	H 14・6
406	80年の傘の下	山村知世夫	H 15・1
407	窓の外は曇り空	江口ムツ子	H 17・5
408	わが青春に食いなし	高橋甲四郎	H 17・5
409	樹陰流れる儘に	松延 幸子	H 18・3
410	黄櫨の旅はぜの実	野中 勝美	H 17・12
411	黄櫨の旅感じるままに	山崎 陽子	H 17・12
412	ほしの残照	山岸 良行	H 18・4
413	わが魂は夕映えと共に	増田 陸郎	H 17・12
414	我流随想	原 忠雄	H 9・5
415	愛はばたいて	野尻千穂子	H 4・5
416	愛しき子等へ	松本 始	S 62・2
417	わたしの歩いた道	政住 光	H 18・7
418	MY PHOTO ALBUM	江上 賢一	H 3・1
419	どこまでも青い空	中野 政子	H 13・7
420	よーそろ倫敦	中野 洋一	H 13・11
421	老兵エッセーに突撃	中村 敦	H 13・5
422	おかげさまで	井上富二・美保子	H 18・3
423	私の生きがい	水曜会 小嶋勇介	H 17・8
424	富永シツ物語	椿 六郎	H 18・10
425	遅しき母	西林須美子	H 8・10
426	人生マラソン折り返し	斎藤 一男	H 6・11

427	昭ちゃん人生	太田 毅	H 5・6
428	舞夢	斉藤 吉弘	H 18・9
429	定年後	岩波書店	H 11・1
430	大島健生集	大島 道雄	H 9・10
431	北やんのバナナ節	北園 忠治	S 60・3
432	生活にゆとりを住みよい村づくり運動	榊 正弘	H 11・6
433	私たちの百年	貞刈惣一郎・みどり	H 18・8
434	煥たり吾が人生	川島 憲一	H 19・2
435	自身の釣り 2006	北島 章	H 19・2
436	我が農協人生に悔いなし	吉田 政人	H 14・5
437	とっばちの風	宮崎 暢俊	
438	みちくさ	泉 佐和	H 19・2
439	ちぎれ雲	岸田 典子	H 19・2
440	少年期	酒井 偉雄	H 19・3
441	風の白書	山村 正明	H 19・2
442	一攫千金の夢を实らせた男	杉原 保	H 12・3
443	暮れなずむ夕映え	富永 義昭	H 12・9
444	弓子の川	橋本勝三郎	H 11・4
445	川筋医者	平塚 弘之	H 3・5
446	プラトニックラブ	江頭 静枝	H 18・4
447	大正・昭和・平成の人生	五十嵐 進	H 19・4
448	我が人生の歩み	辻村 敏郎	H 19・4
449	春はいつ来る	三輪百合子	H 19・4
450	人生に卒業はない	吉田 誠子	H 19・7
451	亡き妻へ	西 行夫	H 19・7
452	坂道の町	久永 丈	H 19・6
453	もっと輝いてシニアライフ	中村 義	H 19・6

454	団塊世代 100 日間世界一周の船旅	多田 稔	H 19・7
455	こだまの響き	浦田 茂	H 12・5
456	餓鬼の残像	八女川 瀬	H 19・8
457	偲び草	井上 公	H 19・1
458	親父のつぶやき	徳永 龍	H 19・9
459	お役所での体験談	田仲 正造	H 19・9
460	生命への祈り	後藤 敦子	H 19・11
461	失語症と携帯電話	牛島 直機	H 19・12
462	続・二人で書いて一人前	神部行雄・恒子	H 20・1
463	非常時に育った俺たち	中島 博	H 20・1
464	酔人回顧録	檀 健二郎	H 17・2
465	戦中派の青春回想	井上 馨	H 20・5
466	法の花暦	湯川 久子	H 19・5
467	機関車に片思い	宇都宮照信	H 19・10
468	ママからの伝言 ゆりちかへ	テレニン晃子	H 19・10
469	私は早くC型肝炎とさよならしたい	福田衣里子	H 18・2
470	またきてくれるの	黒木タツ代	
471	野田タツ代聞き書き	黒木 久夫	
472	自分史	木下 洋一	H 14・3
473	妻への絵手紙	石川 健次	
474	私の人生航路	矢野 一馬	H 8・10
475	定年ブルドッグ	八女川 瀬	H 20・8
476	いびつな器	久重 忠夫	H 20・4
477	柳川の殿さんとよばれて	立花 和雄	H 5・9
478	鶏肋	大鶴嘉晴・恵美子	H 20・7
479	我が人生の歩み	石橋 直俊	H 7・12
480	紅葉の襖	和田 豊次	H 9・4

481	一枝一葉一花の集い	桑野 慶子	H 7・11
482	苦難の人生航路	一條眞津子	H 14・5
483	男運	木澤 廉治	H 10・6
484	八十年の夢の跡	有田 一寿	H 8・11
485	ドジふんじゃった	勝間田敏男	H 19・12
486	漂えど沈まず	松尾 弓祐	H 19・12
487	ヒロ先にごめんね	山下久仁子	H 17・8
488	唯一度きりの手紙	西村 聡淳	H 20・4
489	昭和残映抄	東野 利夫	H 19・12
490	風光る八女美しきものとの出会い	金ヶ江悦子	H 21・1
491	思い出の記	増田正次郎	H 21・3
492	苦境に生きた人生	蔡 金體	H 19・10
493	ぼくの車イス紀行	慈 光 園	H 2・7
494	よろこびの峠	櫛原 茂	H 2・2
495	昭和一桁走り書き	堺 孝幸	H 21・4
496	道すがら	瀧本 正造	S 61・5
497	羽犬塚物語	中尾 定子	S 46・9
498	わが生涯の筆とペン	牛島 正樹	S 50・1
499	随想の記	中山 成彬	H 20・11
500	四島一二三伝	原田 種夫	S 42・5
501	四島一二三さん&記念館の風	土居 善胤	H 21・1
502	水明書院主人文集	三原 温	S 60・1
503	医業の片すみで	弥永 耕一	H 3・10
504	続・水明書院主人全集	三原 温	H 17・2
505	幾山河	弓削 静彦	H 11・9
506	虚実の彼方に	鳥越 俊雄	平元・3
507	アジアンスピリット	岩田 恵子	H 17・2

508	お母さんはなんで働くの	泉 美代子	H 21・4
509	わが青春に「食い」なし	高橋甲四郎	H 17・5
510	我が人生に悔いなし	大久保正好	H 21・8
511	奔流の中から	隈河 培男	H 20・7
512	流れ流されて	隈河 伊七	H 7・1
513	年輪	吉田 晃	H 17・3
514	日々これ想うままに	吉田恵美子	H 15・1
515	さとしくんのなつやすみ	吉田恵美子	H 18・2
516	随筆集風景	原田 喜示	H 21・12
517	我が道程 米寿記念	黒木 三郎	H 21・11
518	唐臼の谷辺	坂本 茂木	H 8・4
519	警鐘	若杉 繁喜	H 22・3
520	波に揉まれて半世紀	立神 亮平	H 22・7
521	つわものどもが夢のあと	木下 富夫	H 22・7
522	道を求める児玉静夫の教え	橋本 正人	H 7・2
523	どん底のたたかい	貝島兼三郎	S 55・8
524	激動の時代を大学で	岡本 宏	H 5・3
525	文ちゃん先生の往診鞆	本田 文昭	H 13・3
526	社長の後ろ姿に学ぶ	長谷川裕一	S 55・4
527	感謝 松田家具六十年の歩み	松田 忠次	H 22・9
528	軍人 内野宇一	内野 健一	H 22・9
529	三だいめ	八並 信	H 12・2
530	初雪	多田ハツ子	H 15・3
531	夫の遺稿 土蜘蛛	黒岩 妙子	H 15・9
532	ポケットにろばのパン	桑名佳津子	H 13・4
533	二〇年目の返済	湯川 久子	H 12・11
534	ツクツクハウシのお話	八尋行恩・節子	H 13・1

535	デジタル自分史	城本 幹夫	H 14・9
536	思い出の記 1・2	江上 正	H 15・4
537	時をこえて	前田 幸吉	H 14・10
538	そのとき	和田 文子	H 19・6
539	今日亦晴天	松田 順吉	H 18・4
540	空からお星さまが降ってきた	井上 和子	H 21・4
541	あすなろ人生	今村 隆起	H 14・5
542	私の歩んできた人生	秋間 達男	H 22・12
543	続つわものどもが夢のあと	木下 富夫	H 23・7
544	あしあと	古賀 次夫	H 2・10
545	旅人	山崎 芳信	H 24・2
546	生ききる死にきる介護の現場	甲木 敏光	H 24・4
547	過ぎし愛しき日々	向坂 ゆき	H 24・2
548	池田勻自叙伝	池田 勻	H 24・7
549	朱雲のふるさと	二見 朱実	H 24・3
550	父母に贈るころの詩	二見 朱実	H 13・3
551	祝福の笑顔つどう	朱い鳥・風教室	H 24・5
552	絵手紙記念日	絵手紙仲間の交流会	H 22・5
553	あしあと	小嶋千鶴子	H 15・11
554	間藤次郎伝	黒田 達也	S 61・7
555	時を刻んで -蘇るの巻-	平島 格	H 24・10
556	夢に生きて	木下 富夫	H 25・3
557	夢・幸せな一生	黒木 操	H 25・4
558	八十路紀行	及川 俊一	H 8・11
559	ころの摘み草	稗田チツ子	H 19・5
560	夢幻の如し	飯笹 実	H 20・1
561	泣き虫会長	堤 和之	H 13・1

562	医療現場を見つめて	長沼 恭子	H 15・3
563	移りゆく時を見つめて	杉森 甫	H 22・6
564	こころの一里塚	相川 和男	H 17・5
565	鈴の音のように	大野 一郎	S 64・3
566	八十年わが人生の回想	林 榮一	H 26・3
567	宮永氏系譜誌	宮永 汪仁	H 26・5
568	先祖に感謝して	矢ヶ部千代乃	H 26・6
569	人生いろいろ挑戦の日々	江崎 潔	H 26・3
570	筑紫次郎	笠井 圭子	H 10・10
571	私の昭和史	鶴飼 礼子	H 17・7
572	京子フォーエヴァー	山本 卓也	H 27・6
573	思い出のアルバム	山本 卓也	H 27・6
574	写真でつづる私の履歴書	鶴田 正知	H 27・9
575	郷土政治家の昭和史	柴田 貫蔵	H 13・5
576	昔のくらしと大東亜戦争の思い出	熊谷ミチ子	H 5・12
577	生ききる死にきる介護の現場	甲木 敏光	H 24・4
578	斉藤新助作品集「舞子へ」	斉藤 新助	S 62・12
579	清六さんと私	坂本 寧	H 8・4
580	つれづれの記	今村 新吾	H 28・10
581	かげろう日記	森下 計二	H 28・1・1
582	おうじょうよう集	森下 計二	H 28・8・1
583	年輪で画く木目	馬場 淳次	H 29・5
584	下川秀樹追悼集		S 60・3
585	思い出とそれから	鶴田 正知	H 29・9
586	一筋の道	橋本義比古	H 29・10
587	我が人生	馬場 一臣	H 29・12
588	95歳の回顧 周防大島の少年期	嶋津 斯文	H 30・1

589	幸運の人生を顧みて	大石 涼	H 30・5
590	思い出雑記帳	林 栄一	H 30・6
591	書業無情	森下 計二	H 30・10
592	地域に生かされて	福山 誠	H 30・11
593	丸岡文雄 傘寿までの自分史	丸岡 文雄	H 28・4
594	雑草にも名前がある	益村 聖	R 1・5
595	渡辺幸一の思い出	渡辺 義幸	R 1・6
596	董色の虹	竹本 克範	H 29・3
597	茜色の虹	竹本 克範	R 1・12
598	パパの生き方雑記帳	花岡 光男	H 16・8
599	八十年わが人生	木屋 宏	R 2・4
600	眼鏡を作って七十年	町井 治郎	H 6・5
601	能登の七輪 燃えたり消えたり	岡 一福	R 2・5
602	間藤次郎伝		S 61・7
603	夢でない百歳の同窓会	林 栄一	R 2・7
604	自分史 母国・祖国	吉泉 恒徳	R 2・8
605	天井から降る哀しい音	耕 治人	S 61・11
606	そうかもしれない	耕 治人	S 63・4
607	わが人生行路	小川 哲男	R 2・10
608	母を恋うる記	木下昭次郎	R 3・3
609	白秋期を楽しく	中紙 規良	R 3・3
610	米寿を迎える人生の思い出	満枝 敏行	R 2・11
611	歌文集 わたしの青春	平嶋壽美江	R 2・10
612	福寿草つゞき	梁瀬 利子	S 46・4
613	生きて花 老いて華	大宅 昌	H 6・6
614	うつと生	大沼 俊	H 24・10
615	凡声	吉居 一朗	S 53・6

616	鎌倉歴史漫歩		S 53・9
617	続鎌倉歴史漫歩		S 54・6
618	続々鎌倉歴史漫歩		S 55・7
619	鎌倉 50 撰歴史漫歩		S 57・3
620	凡声II		S 63・5
621	百姓一代	中村スミ子	R 3・5
622	乗り物放浪記	木下昭次郎	R 3・5
623	癌との闘い	国友 浩	R 3・4
624	猩猩亭日乗	中岡 義	R 3・6
625	養子お父ちゃん子育て奮闘記	木下昭次郎	R 3・8
626	あすなろ人生	今井 隆起	H 14・5
627	二ツ河保育園物語	木下昭次郎	R 4・1
628	大正生まれの父からのメッセージ	樋口 要	R 3・12
629	明治女と私	角 隆喜	R 4・1
630	玄冬期に生きる	中紙 規良	R 4・2
631	山みち	中岡 準	R 4・3
632	団塊世代の我が人生ドラマ	山下 清武	R 2・6
633			
634			
635			
636			
637			
638			
639			
640			
641			
642			

② 郷土・歴史 あなたは知っていますか

1	ふるさと読本 第一巻	江下 淳	S 10・4
2	春華秋実 立花町の村々	杉森 彬	H 2・3
3	久留米藩 政治経済史年表	今方 重一	S 51・8
4	白城にかかる虹―大内暢三伝―	吹春 茂	H 12・5
5	貞享版黒木物語	和田 重雄	S 58・11
6	筑後の木下家物語	木下 果	S 63・4
7	昭和二年度 福岡県紙業案内	高村準太郎	S 2・4
8	日吉温故録	佐々木四十臣	S 59・7
9	家勤記得集	古賀 幸雄	S 50・12
10	寛文十年久留米藩社方開基	久留米郷土研究会	S 56・11
11	久留米藩土器司 田中家資料	古賀 幸雄	S 54・10
12	八女大隈家の先祖誌		S 58・12
13	八女地方伝承俚謡誌	国武 久義	S 53・5
14	高森城風雪四百年史話	高森城四百年記念奉賛会	S 61・3
15	八女津媛神社の浮立記録集	矢部村教育委員会	S 60・1
16	目で見る久留米・筑後・八女の100年	古賀 幸雄	H 13・2
17	稿本八女郡史 復刻	鶴久 二郎	S 47・10
18	人づくり風土記	農山漁村文化協会	S 63・9
19	筑後柳河藩の戊辰戦争	鬼童 忠恕	H 16・12
20	福岡県風土記 風土と文化	株式会社トラベルメイツ社	S 57・2
21	八女郡全誌	本庄 敏行	S 54・1
22	八女郡郷土誌	八女郡教育会	S 53・8
23	八女の職人ことば きもんぬすど	松田 久彦	S 61・11
24	下関の方言	富田 義弘	S 52・4
25	筑後戦国史	吉永 正春	S 58・12

26	立花宗茂	古賀 敏夫	S 48・9
27	支部創設 20 周年記念号	日本民芸協団八女支部	S 56・11
28	支部創設 25 周年記念号	〃	S 61・11
29	やまびこ	中辺春長寿会	H 15・6
30	下広川郷土史	井上 農夫	S 31・
31	征西将軍宮と五條氏	福岡県教育会	S 11・6
32	岩戸山物語	杉山 洋	S 58・8
33	九州のまなべ氏	真鍋 厚	H 5・10
34	うえがたの由来と真鍋半四郎系譜	〃	H 3・
35	遠久谷を語る	〃	S 53・8
36	十志士の面影	喜多村禎男	H 5・1
37	真木和泉守先生 殉道百三十年誌	久留米水天宮	H 7・9
38	ふるさと散歩大川	おおかわ文庫	H 2・10
39	さよならチンチン電車	読売新聞福岡総局	S 50・11
40	明治二十八年 全国諸会社役員録	商業興信所	M 28・9
41	太古のロマン徐福伝説	佐 賀 市	H 6・3
42	藤原治部一門の系譜	吉瀬 宗雄	S 59・11
43	真木保臣伝	筑後市教育委員会山崎窩保存会	H 16・5
44	廣川才所氏の由来	佐々木四十臣	S 61・4
45	蒲池氏の歴史	蒲池 大氣	H 13・8
46	昭和二十八年 八女郡水害誌	園田展右編	S 29・3
47	水魔襲来 その時私達は	立花町中辺春	H 2・12
48	せんげんどい	吹春 茂	H 7・8
49	関西山荘巖寺	森 正夫	H 10・3
50	紫雲山光明寺伝記	光 明 寺	H 4・1
51	久留米市野中町・諏訪野町の石造物	小川 喬義	H 15・10
52	郷土の文化財改訂第一集 (附・黒木町の概要)	和田 重雄	S 63・3

53	平塚山の上遺跡 I	甘木市教育委員会	H 8・3
54	高島遺跡 (2次調査)	八女市教育委員会	H 13・3
55	伊勢参宮道中記	八女郷土史研究会	S 50・9
56	堀割と水の旅	水の会	H 16・1
57	暮らしと方言の色揚げ	内山一兄・郷田敏男	H 1・12
58	八女仕事着の道	松田 久彦	H 7・7
59	筑後市神社仏閣調査書 坂東寺篇	江崎喜与治	S 49・8
60	久福木の地名のはなし	石川 保	H 7・1
61	心に愛の灯火を	加来 宣幸	H 4・5
62	ふるさと歳時記	拡大本の会	H 7・1
63	郷土のものがたり	拡大本の会	H 5・7
64	黒木町年表	黒木町役場	S 63・10
65	上陽町郷土史年表	上陽町教育委員会	H 7・3
66	上陽町の地名呼称	上陽町教育委員会	H 13・7
67	ひらけゆくふるさと矢部	矢 部 村	H 4・3
68	九州戦国の武将たち	吉永 正春	H 12・11
69	久留米市史 第1巻～第3巻	久留米市	S 56・3
70	郷土史物語	江頭 亨	S 43・10
71	酒井田柿右衛門物語	八女市教育委員会	H 16・1
72	伊勢屋小四郎の後裔	小林 茂雄	S 62・12
73	真鍋松五郎と系譜の人達	真鍋 厚	S 63・8
74	風雲肥前戦国武将史	木原 武雄	H 7・1
75	茂左どんの話	松田 康夫	S 55・7
76	正々堂々真木和泉守の生涯	山川 常人	S 58・
77	矢部川の地名の話	鶴 記一郎	S 56・10
78	増補 筑後陶磁考	鶴久 二郎	S 53・10
79	燈籠人形夜話	杉山 洋	S 57・9

80	谷川組御用日記	立花町教育委員会	H 5・2
81	梅野多喜蔵先生伝	浅野 陽吉	S 12・12
82	石匠の技	馬場 紘一	H 10・11
83	菊池一族の興亡	荒木 英司	S 63・4
84	小結揚羽空右衛門	杉山 洋	H 4・12
85	写真で見る朝鮮半島の農法と農民	高橋甲四郎	H 14・3
86	ふるさとの石造美術②石造狛犬	坂田 健一	S 53・11
87	民俗芸能 八女津媛神社の浮立記録集	矢部村教育委	H 12・3
88	福岡の歴史	福 岡 市	S 54・10
89	豊後岡城史抄	羽田 敬二	S 63・11
90	大牟田の干拓と埋立	安部 靖	H 16・8
91	史蹟伝説を尋ねて 福岡篇	宮部 末吉	S 53・8
92	〃 佐賀・長崎・熊本各篇	〃	S 55・3
93	〃 鹿児島・宮崎・大分篇	〃	S 56・5
94	筑紫の磐井(上)・(下)	田中 博	S 54・2
95	東海に蓬莱国あり 徐福伝	〃	H 3・1
96	増補 水巻町誌	水 巻 町	H 13・6
97	筑穂町誌 上巻・下巻	筑 穂 町	H 15・3
98	有川町郷土史	有 川 町	H 6・2
99	九州人国記	伊豆 富人	S 41・10
100	秋月史考	田代 政栄	S 26・10
101	長崎古今集覧名勝図絵	越中 哲也	S 50・8
102	葉隠れのころろ	栗原 荒野	S 41・8
103	博多二千年	村瀬 時男	S 36・10
104	久留米藩史覚書	古賀 幸雄	H 14・12
105	博多郷土史事典	井上 精三	S 62・11
106	福岡市史	福 岡 市	H 6・3

107	真木和泉守保臣先生 一代絵巻	顕彰事業推進委員会	H 6・7
108	筑後戦国史	吉永 正春	S58・12
109	悲運の藩主 黒田長溥	柳 猛直	H 1・12
110	上津校区歴史物語	高田 八束	H 13・5
111	郷土の砦	羽田 敬二	S 63・11
112	小田部土佐	小田部昭典	S 59・3
113	福岡県の城	廣崎 篤夫	H 7・4
114	田主丸ん本	田主丸町	H 16・12
115	狐原邪仮（久留米方言考）	松田 康夫	S 49・9
116	干拓地の地名	杉本 恵正	S 57・12
117	初手物語	真藤ミチヨ	S 47・12
118	人形原建碑録	人形原建碑委員会編	S 55・11
119	坂本繁二郎伝	小島 直記	H 3・10
120	矢部川の話	矢部川を守る会	S 49・3
121	久留米人物誌	篠原 正一	S 56・10
122	筑後川農業水利誌	九州農政局	S 52・3
123	大伴部博麻 復刻	鶴久 二郎	S 48・12
124	筑後誌 復刻	久留米郷土研究会	S 49・9
125	真木和泉守遺文 復刻	鶴久 二郎	S 50
126	八女の祭り	八女青年会議所	S 52・2
127	正行村庄屋文書	柳川郷土クラブ	S 52・3
128	福岡県八女郡史	八女郷土史研究会	S 52・6
129	史料とはなし	加藤 栄	S 52・11
130	星野農民鉄砲隊	坂井 藤雄	S 52・11
131	真木和泉守	久留米水天宮	S 54
132	八女の郷土史	八女郷土史研究会	S 56・6
133	郷土の文化と遺跡	上陽町教育委員会	S 57・3

134	石橋家譜	石橋五百恵	S 57・7
135	八女の方言	内山一兄・郷田敏男	S 48・3
136	寺坂吉右衛門書翰 復刻	鶴久 二郎	S 59・6
137	大川風土記②・③	おおかわ文庫	
138	御井町史	御井小学校	S 62・4
139	悲恋の女王 久津媛	福本 英城	H 11・10
140	江碕濟伝		S 63・9
141	郷土の文化財 第一集	黒 木 町	S 63・11
142	久留米有馬藩財政史	今方 重一	H 4・5
143	継心堂物語	酒田 湖仙	S 31・12
144	故郷の花 第 22 号～	小郡市郷土史研究会	
145	城島町町村合併 50 周年記念誌	城 島 町	
146	北野語り継ぐわがまち	北 野 町	
147	花と技術のまちづくり	近見 敏之	
148	誠意・創意・熱意	井本 勇	
149	わがふるさと考(1)～(6)	秋山 喜文	
150	平家物語	高良大社	
151	古賀メロディーの思い出エッセイ集	古賀政男顕彰会	
152	八女を歩く 第一集	松田 久彦	H 16・11
153	物々好感	〃	S 60・2
154	福岡県の文学碑 古典編	大石 実	H 11・10
155	福岡県の文学碑 近・現代編	大石 実	H 17・9
156	廣瀬淡窓日記 [一]～[四]	井上 源吾 訳註	H 10・12
160	写真集 筑後黒木	黒木町教育委員会	H 17・10
161	駅の表情 [上]	遠城寺宗知	H 17・9
162	駅の表情 [下]	〃	〃
163	九州の古戦場を歩く	吉永 正春	S 61・7

164	徐福論	達 志保	H 16・6
165	九州歌碑の山旅	井上 優	H 9・7
166	鴻臚館の時代	朝日新聞福岡総局	S 62・5
167	瓜生島沈没	加藤 知弘	S 53・9
168	菅原道真	坂本 太郎	S 37・11
169	太宰府と新羅百済の文化	福岡県教育委員会	S 63・3
170	長崎街道		H 2・7
171	海を駆けた人たち	西日本新聞社	H 16・12
172	想い出の街	井上 孝治	H 1・8
173	坂本繁二郎の道	谷口 治達	S 43・7
174	青木繁	阿部 信雄	H 9・6
175	青木繁その愛と放浪	松永 伍一	S 54・8
176	青木繁の生涯	渡辺 洋	S 63・9
177	ちくご 100 年につぼん 100 年	下川 耿史	H 3・11
178	野十郎の炎	多田 茂治	H 13・5
179	一者と阿弥陀	山本 空外	S 57・9
180	久留米藩難から新選組まで	松本 茂	H 18・2
181	種痘の祖緒方春朔	富田 英壽	H 17・11
182	緒方春朔顕彰の歩み	富田 英壽	H 17・1
183	剣士松崎浪四郎	園田徳太郎	S 32・11
184	真木和泉守と久留米藩医学	王丸 勇	S 39・7
185	稲作の歴史的発展過程	高橋 昇	H 18・3
186	1930 年代大韓民国の農業・農村写真集	韓国農林振興庁	H 13・12
187	大隈言道	桑原 廉靖	H 10・11
188	八女を歩く	松田 久彦	H 18・4
189	八女の四季	平田 友武	H 9・4
190	由布院に吹く風	中谷健太郎	H 18・2

191	日本古代史の推理	片伯部 旭	H 18・2
192	筑前江川谷	多田 茂治	S 54・10
193	妙寿日成貴尼伝	内藤 寿学	H 8・10
194	八女を歩く 第二集	松田 久彦	H 18・6
195	ほしの残照	山岸 良之	H 18・4
196	飛形山上なで観音の記	吉原 善吾	H 5・1
197	熊本土族隊その他	甲斐 弦	S 62・7
198	塔に魅せられて 近畿・岡山篇	山際 得悦	H 15・10
199	酒井田柿右衛門物語	八女市教育委員会	H 16・1
200	北洑義塾	上 陽 町	H 18・9
201	ふるさとの川	小川 喬義	H 18・8
202	上陽町閉町記念誌	上 陽 町	H 18・9
203	塔に魅せられて 東日本篇	山際 得悦	H 8・4
204	塔に魅せられて 中部日本篇	山際 得悦	H 11・9
205	木星 第3号	岡山青年団	S 30・11
206	木星 第4号	岡山青年団	S 31・2
207	八女の方言歳時記	郷田敏男・梅本光男	H 18・12
208	久留米餅と私	広川町商工会	H 19・1
209	薩摩義士 第14号	薩摩義士顕彰会	H 19・4
210	肥後街道榎津小保と吉原家の創建	石橋 泰助	H 19・4
211	幻炎	島田 真祐	H 19・3
212	汽笛の記憶	鳥栖市誌編纂委員会	H 18・12
213	八女福島の燈籠人形	八女市教育委員会	S 56・3
214	震潮記 阿波国穴喰浦	田井 晴代	H 18・6
215	仙厓百話	石村 善右	H 19・5
216	句碑を訪ねて六百里	赤羽 正業	H 19・8
217	有明海の今昔	近藤 潤三	H 19・9

218	突きの進	松見 正宣	H 19・9
219	塚ノ谷窯跡群	八女市教育委員会	S 44・3
220	郷土久留米復刻版(二) 1992～2002	久留米郷土研究会	H 14・3
221	郷土久留米復刻版(三) 2002～2007	久留米郷土研究会	H 19・12
222	ぶらり秋月	野田 眞良	H 19・6
223	筑後水滸伝 田尻鑑種	佐野 暈幸	
224	朝鮮全土を歩いた日本人	河田 宏	H 19・2
225	西日本文化・地域特集 八女	西日本文化協会	H 18・6
226	大伴部博麻物語	木下 義弘	H 20・3
227	坂東寺史		H 20・6
228	流れを変えた人々	加治屋知暁	H 10・7
229	福岡の薬剤手帖	福岡市薬剤師会	H 20・6
230	筑後川	河合楽器	H 10・12
231	大江の幸若舞	瀬高町教育委員会	S 54・3
232	田主丸ん本	田主丸町	H 16・12
233	久留米市史第 13 巻	久留米市	H 8・3
234	花は一色にあらず牛島謹爾	山田 義雄	H 20・10
235	ポテトキング牛島謹爾	深町 時生	H 20・10
236	筑後・肥前歳時記	清水 映凰	H 10・5
237	目で見る久留米の歴史	久留米市	S 54・4
238	邪馬臺國探見記	渡辺 村男	T 4・3
239	久留米路の旅情	田中 幸夫	S 47・7
240	九州人	毎日新聞社	S 35・8
241	筑後川民話集	久留米青年会議所	
242	方言漫語・三つの伝説	牛島 正樹	S 48・1
243	古代吉備王国の謎	間壁忠彦・葎子	S 47・12
244	ふるさと	長崎雪の浦壮年団	S 49・4

245	佐賀の民家	佐賀市教育委員会	S 56・12
246	追憶	上 陽 町	S 56・7
247	下駄ばきぶらたん	富田 義弘	S 51・11
248	伊勢小の看板	藤野 幸平	S 52・10
249	燈籠人形復元修理報告	燈籠人形保存会	H 21・3
250	稲富・六反田遺跡	八女市教育委員会	H 21・3
251	郷土雑誌 飛形	今村 囿彦	S 39・1
252	八女を担う百人集	筑後経済新聞社	S 29・1
253	八女市勢要覧 昭和 37 年版	八 女 市	
254	八女市勢要覧 昭和 42 年版	八 女 市	
255	平成の大水害	立花町松尾	H 8・5
256	柳川今昔	柳川青年会議所	S 56・10
257	有明海	松永 伍一	S 46・9
258	三井郡国分町及び周辺誌	高山 精二	H 10・9
259	久留米付近の合戦城塞	清松 哲	H 12・7
260	外園の燈（松瀬物語）	樋口章之輔	H 6・9
261	私の博物誌	河谷日出男	S 50・4
262	うにと私	藤野 幸平	S 51・11
263	さよならチンチン電車	読売新聞福岡総局	S 50・11
264	ふるさと文学抄	読売新聞西部本社	S 45・5
265	素顔拝見	久留米日日新聞社	S 38・3
266	郷土の文化財	久留米市教育委員会	S 57・3
267	湯の街別府の野球史	工藤 吉三	H 21・2
268	聞き書き「別府緑丘高校」物語	工藤 吉三	H 16・5
269	私のつれづれ歴史探訪	松本 茂	H 21・5
270	八女を歩く 第3集	松田 久彦	H 21・7
271	九州学を楽しむ	堂本亮平・狩野啓子編	H 6・3

272	江戸時代の八王子宿	樋口 豊次	H 2・7
273	決戦 八王子城	前川 實	H 21・6
274	糸島の千年	樗木 雅春	H 21・8
275	小島直記先生追悼集	小島直記先生を偲ぶ会	H 21・9
276	小天狗道中記	森田きよみ	H 12・7
277	天翔ける女 大浦慶	白石 一郎	S 54・11
278	新山中トンネル水路	河津 武俊	H 17・12
279	耳納連山	河津 武俊	H 8・9
280	肥後細川藩幕末秘聞	河津 武俊	H 15・10
281	富貴寺悲愁	河津 武俊	H 15・6
282	漂泊の詩人 岡田徳次郎	河津 武俊	H 16・5
283	秋の川		H 18・8
284	久留米藩一揆異聞	西村 聡淳	H 12・10
285	留魂記 宝暦治水物語	大坪草二郎	S 55・4
286	子守唄の里から	海 有一	H 15・1
287	鐵瓶のつぶやき	白濱 茂男	H 20・11
288	黒木町護国神社史	護国神社奉賛会	H 22・11
289	今村隆起物語	山口 秀範	H 22・7
290	九州の花・実凶譜	益村 聖	H 21・12
291	ふるさと探訪 浮羽町編	うきは市郷土会	H 23・5
292	ちっこふるさと探検	T M の会	H 23・3
293	おたより文集福寿草 25年のあゆみ		H 23・12
294	異風者伝	井上 智重	H 24・1
295	五條家の宝物		H 23
296	こころのふるさと新川じまん	浮羽町新川	H 24・3
300	博多けいさつ繁昌記	中山 咸男	
301	水害誌	八女郡役所	大 14・9

302	研究会誌 28号(40周年記念)	久留米郷土誌研究会	H 24・11
303	7.14 山下大水害記録誌	立花町北山山下地区	H 24・12
304	八女の彩 30年の歩み	八女民芸協会	H 25・3
305	大刀洗町史		S 56・11
306	松田さん 八女を歩く	福原 信彬	H 25・11
307	湯布院幻燈譜	中谷健太郎	H 7・7
308	熊野神社六百年記念誌		H 25・12
309	初代刀祖を求めて	18代 包行良人	H 25・12
310	博多に生きた藩医	原 寛	H 26・6
311	まんが日記が語る戦時の暮らし	草野歴史資料館	H 26・7
312	即訳! ふくおか方言集	中村 万里	H 21・5
313	黄櫨 50号までの編集後記その足どり手帳	椎窓 猛	H 26・12
314	團さんの夢	中野 政則	H 15・4
315	みやまの人と歩み	みやま市	H 26・12
316	みずま 子どもたちの風土記(2)	鶴陽・城山会三潯会	H 24・3
317	みずま 子どもたちの風土記(3)	鶴陽・城山会三潯会	H 27・2
318	久留米のむかし話(1)	鶴陽会久留米支会	H 21・3
319	久留米のむかし話(2)	鶴陽会久留米支会	H 24・1
320	久留米のむかし話(3)	鶴陽会久留米支会	H 26・12
321	筑後川	三浦 俊明	H 27・9
322	三生軒遺墨帖	梅 林 寺	H 27・12
323	柴刈村歴史散歩	鹿毛 勲臣	H 27・12
324	八女の里物語	福岡県文化団体連合会	H 27・3
325	もう一つの靖国神社	猿渡 惇	H 29・4
326	八女市・筑後市・広川町むかし話	鶴陽会八女支会	H 30・3
327	邪馬台国論争の終焉	真野 和夫	H 21・9
328	みずま第4集子ども風土記	鶴陽会・城山会 三潯支部	H 30・3

329	ふるさと平物語	仁田原末男	H 28・10
330	豊福ものがたり	馬場 紘一	H 30・12
331	上陽町ゆかりの先達	上陽歴史探訪の会	R 1・12
332	吉田円蔵の栄光と悲運の生涯	松尾 文郎	R 2・2
333	松尾	松木 房子	R 2・4
334	上陽ゆかりの先達	上陽町歴史探訪の会	R 2・9
335	常設展示図録	八女市教育委員会	H 27・11
336	石製表飾品の変遷	八女市教育委員会	R 2・10
337	地域に展く緩和ケア	みどりの杜病院	R 2・11
338	仁助・仁左衛門と井手口一族	井手口良徳	R 2・12
339	大漕の歴史年表	大漕 地区	R 3・2
340	孫に語る国民学校の話	信州智里東 国民学校同級会	R 3・9
341	最涯の島 番屋分の物語	藤井 輝備	H 30・10
342	祖父母の記	田中 明子	R 3・5
343	球磨村七十九集落巡り	球 磨 村	R 3・3
344	久留米の町寺社めぐり	高山 精二	H 8
345	素盞鳴神社 獅子舞	広川町清楽茶屋	H 29・1
346	山下町のあゆみ	中村 富治	R 3・12
347			
348			
349			
350			
351			
352			
353			
354			

③ 戦記 戦旅露営の夢はるか

1	故郷の灯	佐藤 茂	S 61・11
2	戦争史概観	四手井綱正	S 18・10
3	北斗星の下で	江上満寿男	S 51・1
4	望郷の日々	樋口 力	S 63・6
5	菊の走馬燈	近藤 真澄	H 1・7
6	戦跡を訪ねて！蒙古大草原をゆく	第六中隊戦友会	S 58・12
7	星三つの青春	宮本 伍朗	S 57・8
8	奪われた青春－強制捕虜の叫び－	赤間関書房	S 50・11
9	筑紫峠	武久 茂	S 62・9
10	吾が運を回想して	安達 英二	H 7・8
11	戦中戦後の回想録	角 正夫	H 7・8
12	ウランバトル抑留記	井上 賢	H 12・9
13	私の戦争体験①	やひめ文庫	H 3・9
14	私の戦争体験②	〃	H 5・3
15	大東亜戦争進行編（前編）	倉掛 泰隆	H 13・9
16	軍艦千歳	軍艦千歳会	H 6・10
17	青い軌跡	黒葛原 勲	H 6・6
18	比島敗戦記	池田 清	S 61・11
19	野戦病院物語	矢野 政美	S 59・2
20	騰越玉砕記	吉野 孝公	S 54・8
21	独山三史	独立山砲兵第三聯隊	S 56・5
22	戦争と若者たち	堤 克彦	S 49・11
23	戦争の語り部として	全国戦災傷害者連絡会	S 50・8
24	大村被爆記	豊田幸吉郎	S 36・10
25	平和 伝えたい母たちの願い	八女郡連合婦人会	H 7・11

26	初年兵	石橋友之祐	H 16・8
27	セレブスの海底から	笠原 美代	H 16・10
28	特務兵日記	波多野院三	S 61・1
29	続特務兵日記 ～IV	〃	
30	21 空廠会ニュース	21 空 廠 会	
31	山西残留秘史 白狼の爪跡	永富 博道	H 7・8
32	赤い夕陽に背をむけて	吉田ふじ子	H 4・4
33	草原の夕陽	山田 邦夫	S 63・9
34	銃のない兵隊	富田 寅一	H 7・12
35	敵前横断二千キロ	吉田 辰造	H 5・5
36	飢餓の島メレヨンからの生環	大浦 庸生	H 5・3
37	「落下傘ニュース」復刻版	福山 琢磨	H 12・12
38	奈良県満州開拓史	奈良県拓友会	H 8・7
39	翔飛 創刊道～第 12 号	少飛十七期綴る会	H 14・2
40	敗戦の恐怖	小野サトエ	H 13・1
41	戦艦大和が沈んだ日	中川 秀彦	H 17・2
42	ビルマ戦線敗走日記	江口 萬	H 11・3
43	探求録	中尾 義孝	H 9・5
44	戦場を駈ける S L	中上與志夫	H 13・7
45	シベリアを生きる	若宮 由松	H 10・12
46	シベリア抑留体験記	真弓 一郎	S 60・12
47	我が戦記 ボルネオ回想	青山 敏男	H 9・11
48	はめられた真珠湾攻撃	三好 誠	H 12・3
49	戦艦大和からの生還	武藤 武士	H 1・12
50	虐待からの逃避行	伊集院三枝子	H 4・8
51	新聞記者が語りつぐ戦争 (4)	読売新聞編	H 4・5
52	三萬マイルの波濤	江田 敏男	S 59・12

53	太平洋戦争敗戦の真相に迫る	加藤 卓雄	H 12・12
54	生かされたいのち燃やして	來須 富子	H 7・9
55	19才 初年兵	佐藤 純大	H 16・3
56	遙かなるミレー	読売新聞編	H 6・3
57	道・道・道・東欧収容所	高橋 清	H 10・2
58	ウランバトルへの道	赤間関書房	S 51・2
59	死線を越えて	佐々木 健	S 54・5
60	母と兄と妻とへ	梶村 止	S 55・10
61	独山会戦友録	独 三 会	S 60・4
62	私の戦記	小野 健二	S 62・4
63	陣中日誌	田代 勉	S 62・11
64	続陸男君の陣中日誌	〃	H 3・8
65	生きて帰りたい	森田 尚	
66	自分誌従軍記	江上 正	
67	ある兵隊の記録	岩元 一夫	S 46
68	悲惨太平洋戦争	〃	H 16・3
69	南十字星の下で	永田 呂邨	H 17・6
70	女子挺身隊 甘木日記	寺西マリコ	S 58・4
71	海碧き島よりふるさとへ	倉ノ下和代・元田一	H 17・9
72	まぼろしの楽土・満州	やまだつとむ	S 63・10
73	祖父たちの戦場	西日本新聞社	S 60・12
74	私のシベリア物語	栗谷 票束	H 8
75	南支戦線一軍医の陣中日誌	不破 義信	S 48・4
76	中国と私その自分史	木村 連	H 11・12
77	戦争特集	南日本新聞社編	H 14・7
78	空のかなたに	朝日新聞西部本社編	H 2・7
79	ソロモンの灯	米本ひとし	S 53・11

80	あゝ三水警備隊	中谷 一正	S 47・8
81	軍医ソロモン戦線絵行脚	米本ひとし	S 51・10
82	従軍回想記国境 第一巻	田中 正太	S 55・1
83	〃 第二巻	田中 正太	S 56・7
84	〃 第三巻	田中 正太	S 58・4
85	初年兵日記	朝香 進一	S 57・7
86	泣き虫軍医物語	田中 保善	S 55・12
87	軍医のお笑い従軍記	堀 慶介	S 50・3
88	墓島からの生還	見藤千代治	H 18・3
89	海碧き島よりふるさとへ	倉ノ下和代	H 17・10
90	戦陣と軍靴	片伯部 實	S 59・8
91	夢幻の満州国	国武 唯義	H 17・12
92	勝機なきビルマ戦	武末達三郎	H 5・8
93	私と戦争	NHK福岡文化センター	H 15・11
94	輜重兵隊勇戦す	力丸 近生	H 8・10
95	陸軍へんこつ隊長物語	後藤 四郎	S 57・3
96	南溟の勇士に捧げるうた	渡瀬 和子	S 59・5
97	幽閉モンテンルパ	辻 長一	S 59・12
98	或る敗因	石田 京	H 19・2
99	生きて帰れまいこの命	矢澤 新五	H 19・3
100	一下士官のビルマ戦記	三浦 徳平	S 56・4
101	ビルマ敗退戦	興野 義一	S 56・10
102	ビルマ進攻作戦	陸戦史研究普及会	S 43・7
103	雲南、ビルマ戦記	外田 栄吉	H 元・9
104	ビルマ敗戦記	浜田 芳久	S 57・4
105	累骨の谷	橋本 武彦	S 54・2
106	戦い敗れて	堀内 龍三	S 55・6

107	第二次派遣団収骨報告		S 52・6
108	ビルマ収骨記録		S 52・9
109	絵本南戦録	渡辺勝三郎	S 53・8
110	遙かなる祖国への道	小出 盛夫	H 19・5
111	軍隊生活の思い出日記	志賀 正司	H 19・4
112	丸腰整備兵	杉田 裕己	H 19・5
113	生と死の狭間を生きて	増澤 昭子	H 19・5
114	俺の海軍時代と戦後	矢崎 高德	H 19・6
115	百七通の軍事郵便	山口ひとえ	H 19・7
116	遙かなる絆	朝永 清之	H 19・6
117	嗚呼！青春のグラフィティ昭和十四年	浜田 覚	H 19・6
118	共に帰国の朝を	斎藤 博	H 19・9
119	シベリヤヤボンスキーサルダート	井戸辺正則	H 19・9
120	鎮魂記白菊連想	菊池 康夫	H 19・8
121	ルソン島野戦病院全滅の記	西井 弘之	H 19・8
122	ニューギニア戦歌集	内貴 直次	H 19・8
123	美しき翼	原口 末次	H 19・8
124	大刀洗空襲と三軒茶屋爆撃を語る	椋島 新	H 20・3
125	柳州山河	桑原 廉敬	H 12・1
126	追憶	清原 正憲	H 16・11
127	散るぞ悲しき・栗林忠道	梯 久美子	H 17・10
128	アベマーマの守備隊長	栗林徳五郎	H 7・7
129	大国ロシアになぜ勝ったのか	偕 行 社	H 18・3
130	静かなノモンハン	伊藤 桂一	S 59・5
131	太刀洗飛行場物語	桑原達三郎	S 56・9
132	ちゃん屋奮戦記	志岐 叡彦	S 62・3
133	福岡県戦没者遺族の五十年	県遺族連合会	H 7・8

134	独立歩兵第十三聯隊第六中隊誌		S 60・4
135	父上さま母上さま	神社新報社	S 63・7
136	昭和いまだ去らず	外田 栄吉	H 元・9
137	戦場の聴診器	中田 整一	H 20・9
138	翼にかけた青春	小川 菊美	H 7・4
139	戦地から妻への 1600 通の葉書	青木 一	H 8・8
140	セレブスの海底から	池田 美代	H 16・10
141	大東亜戦争進行編	倉掛 泰隆	H 13・10
142	茜雲の空の下で	吉開 節子	H 21・5
143	九男坊の戦場	春田 實行	H 4・1
144	ラバウル日記	麻生 徹男	H 11・12
145	蛭になった特攻兵	広井 忠男	H 7・8
146	ホタル帰る	赤羽礼子・石井 宏	H 13・5
147	神風は吹かず	永末 千里	H 3・12
148	従軍記	阿部 元	H 15・1
149	捕虜貴族	佐野 専一	S 48・3
150	セブ隊義勇隊 隊長の手記	酒井 三郎	S 53・8
151	凍土地帯	勝野 金政	S 52・11
152	父の影を求めて	福住眞智子	
153	戦いいまだ終らず	久山 忍	H 21・12
154	忘れ得ぬ思い出	やひめ文庫⑤	H 7・8
155	若き将軍の朝鮮戦争 第1巻	黒木 実馬	H 24・4
156	〃 第2巻	〃	H 24・4
157	〃 第3巻	〃	H 24・4
158	空のかなたに	鳥浜トメ回想	H 2・5
159	被爆体験証言集 19	エフコープ生協	H 25・6
160	伝説の駐蒙「響兵团」一兵士の回想	上東 政治	H 24・6

161	駆逐艦初春と共に大東亜戦に参加して	鍋島 直行	H 28・7
162	樺太 戦火逃れて	藤井まさ子・藤井輝備	H 30・10
163	戦争に行った叔父	田中 明子	R 2・3
164	兵隊過去帳	桜井 忠温	S 29・7
165	悪兵	森金 千秋	S 53・5
166	墓標なき島	北川 幸一	S 63・8
167	生きて来た	津島 岳雄	S 23・10
168	傀儡部隊	酒井 三郎	S 53・8
169	憲兵	宮崎 清隆	S 45・11
170	少女たちの戦争	中央公論新社	R 3・11
171	憲兵余録	鈴木卓四郎	S 59・3
172	最後の行軍	畠山 英数	S 57・8
173	茨の道	村岡 喜代	S 59・10
174	脱獄参謀	安部 光男	S 40・3
175	ノモンハンの真相	玉田 美郎	S 56・10
176	北満 初年兵の生活日記	森下 紀良	S 55・11
177	北満永久要塞—関東軍の最期—	岡崎 哲夫	
178	ビルマ敗戦行記	荒木 進	S 57・7
179	もうひとつの太平洋戦争	並河 亮	S 59・4
180	ノモンハン戦記	小沢 親光	S 49・7
181	〔証言〕七三一石井部隊	郡司 陽子	S 57
182	戦場に捧げた青春	元日赤従軍看護婦の会	S 60・8
183	廃兵はいやだ	坂東 公次	S 28・10
184	続・侵掠	小俣 行男	S 57
185	上海陸軍病院	市川多津江	S 60・8
186	絞首刑	門松 正一	S 25・4
187	われらソ連に生きて	ソ連帰還者生活擁護同盟	S 23・12

188	逃げる兵	渡辺 憲央	S 54・6
189	青春監獄	宮崎 清隆	S 30・9
190	従軍看護婦	千田 夏光	S 50・12
191	へんこつ隊長物語	後藤 四郎	S 54・12
192	炎の日から 20 年	中國新聞社	S 41・6
193	私の雑記帳	長岡規矩雄	S 17・9
194	雑草のうた	創価学会婦人平和委員会	S 56・12
195	われ地獄へ堕ちん	長岡 純夫	S 60・7
196	初年兵日記	朝香 進一	S 57・5
197	春なき二年間	鈴木 雅雄	S 23・5
198	中国人強制連行事件	金巻 鎮雄	S 50・11
199	戦争（下巻）	朝日新聞テーマ談話室	S 62・10
200	戦友連十年のあゆみ	全国戦友会連合会	S 54・11
201	ランドセル燃えた！	小川 興	S 60・8
202	私の戦争体験記	鏡 会有志	S 57・9
203	むらの戦時記録	高篠 喜一	S 55・3
204	パレンバン of 医療団	久留米大学凶南会	S 43・9
205	アボジがこえた海	李 興燮	S 62・4
206	ヒロシマの記録	中國新聞社	S 41・8
207	太平洋戦史文献解題	井門 寛	S 46・8
208	痛恨・カボウ谷地	岡村 外男	S 58・4
209	一軍医のみたビルマ敗退戦	興野 義一	S 56・10
210	母と水兵 伝えたい吾が心の遺産	石持 武	S 59・4
211	ソロモン戦記	福山 孝之	S 55・2
212	泣き虫応召兵	南 和夫	S 53・9
213	ある患者収容隊員の死	魚住 孝義	S 52・12
214	傷痕ルソンの軍靴	佐藤 喜徳	S 57・8

215	華北戦記	桑島 節郎	S 53・7
216	私のダバオ戦記	三宅 善喜	S 56・8
217	太平洋玉砕戦	平塚 柁	S 50・8
218	私は日本軍に抑留されていた	シリア・ルーカス	S 50・8
219	野戦看護婦	安齊 貞子	S 28・6
220	侵略—従軍兵士の証言	日本中国友好協会 中国帰還者連絡会	S 50・7
221	ビルマ戦場日記	小林 育三郎	S 56・8
222	ビルマ最前線 1	宮部 一三	S 55・7
223	軍人在監人	豊田 耕治	S 53・8
224	生ある限りルソンへ	磯崎 隆子	S 59・7
225	初仕事は“安楽殺”だった	塩月 正雄	S 53・8
226	ぼくは日本兵だった	J・B・ハリス	S 61・8
227	戦史にない戦争の話	曾根 一夫	H 3・8
228	軍医たちの戦場	御園生一哉	S 57・11
229	学徒兵の手記	菊池 一雄	S 54・10
230	将軍の遺言 遠藤三郎日記	宮武 剛	S 61・3
231	蟻の兵隊 日本兵 2600 人山西省残留の真相	池谷 薫	H 19・7
234	大陸殿兵団	魚住 孝義◎	S 58・7
235	戦地憲兵	井上 源吉	S 55・11
236	戦争と人間の記録	石引 ミチ	S 54・9
237	キミちゃんの手紙 —ナガサキ被爆女学生の記録	山登 義明	S 60・6
238	雪の墓標 —夕コ部屋に潜入した脱走兵の告白	小池喜孝・賀沢 昇	S 54・4
239	海軍日記	野口富士男	S 57・8
240	人肉と日本兵	石長 真華	S 50・8
241	遥かなりルソンの山河 —わが青春の戦争と平和—	山形 近蔵	S 51・12

242	わが近衛聯隊体験記	新里 金福	S 52・1
243	ルソンに朽ちた若き航空兵達の悲劇	赤松 光夫	S 59・6
245	ああ！シベリヤ捕虜収容所	忠平利太郎	S 43・9
246	「自決」終戦殉国者の記録	永松 浅造	S 37・2
247	一血と涙で綴った証言―戦争（上巻）	朝日新聞テーマ談話室	S 62・7
248	北朝鮮引揚者がつづる終戦史	北朝鮮引揚問題研究会	S 54・1
249	私の街から戦争が見えた	川崎市中原平和教育学級	H 1・7
250	あゝ国民兵	樋口 喜徳	S 50・8
251	大連・空白の六百日	富永 孝子	S 61・7
252	南十字星に祈る―東部ニューギニア戦記	小口 清	S 56・8
253	遙かなる足あと	山形県遺族会編集委員会	S 63・3
254	火筒のひびき―ある従軍看護婦の記録	山崎 近衛	S 52・8
255	南方特別留学生トウキョウ日記	レオカディオ・デアシス	S 57・12
256	ラサ島守備隊記	森田 芳雄	S 43・10
257	戦場 ルソン敗戦日記	浜野健三郎	S 54・7
258	証言は消えない―広島記録 1	中國新聞社	S 41・7
259	最悪の戦場に奇蹟はなかった	高崎 伝	S 49・11
260	ある兵士の手記	宮前 鎮男	S 42・5
261	シンガポール収容所	中村 八朗	S 54・9
262	兵営日記 大戦下の歩兵第 27 連隊	大内 誠	S 63・8
263	捕虜第一號	酒巻 和男	S 24・11
264	ラバウルの落日	岡本 信男	S 50・7
265	南海の不沈艦 ポナペ島戦記	秋田 武彦	S 56・2
266	太平洋戦争史 1～6 巻	青木書店	
267	学徒兵の青春	奥村芳太郎	H 5・11
268	旋風 20 年	森 正蔵	S 21・2
269	戦時下の言論統制	松浦 総三	S 50・3

270	天皇の軍隊	熊沢京次郎	S 49・5
271	水子の譜	上坪 隆	S 54・7
272	いろまち燃えた	君本 昌久	S 58・3
273	重臣たちの昭和史 上巻	勝田 龍夫	S 5・6
274	重臣たちの昭和史 下巻	勝田 龍夫	S 56・6
275	天皇終戦秘史	篠田 五郎	
276	白昼と玉砕	安田武・福島鑄郎	S 49・6
277	知将秋山真之	生出 寿	S 60・12
278	木本営発表の真相史	富永 謙吾	
279	南京大虐殺のまぼろし	鈴木 明	S 48・3
280	媚婦たちの天皇陛下	佐木 隆三	S 53・10
281	兵隊たちの陸軍史	伊藤 桂一	S 44・4
282	白の十字架	第 63 兵站病院追想記	S 43・6
283	裂日サイパン島	白井文吾編	S 54・3
284	敗者の贈物	ドウス昌代	S 54・7
285	「流転の王妃」の昭和史	愛新覺羅 浩	S 59・11
286	昭和特高弾圧史	明石博隆・松浦総三編	S 50・6
287	日本の暗号を解読せよ	ロナウド・ルウィン	H 10・12
288	作戦参謀 辻政信	生出 寿	S 62・7
289	海軍散華の美学	春山 和典	S 47・12
290	わが電波戦略戦		S 45・10
291	従軍慰安婦女子勤労挺身隊	伊藤 孝司	H 4・8
292	大東亜戦史ジャワ作戦		H 17・11
293	海軍特別攻撃隊の遺書	真継不二夫	S 46・8
294	戦時下に生きる	伊豆 利彦	S 55・5
295	私の記録	東久邇宮稔彦	S 22・3
296	航空母艦	永村 清	S 17・1

297	従軍慰安婦悲史	千田 夏光	
298	従軍慰安婦（正篇）	千田 夏光	S 53・9
299	従軍慰安婦（続篇）	千田 夏光	S 53・9
300	従軍慰安婦・慶子	千田 夏光	S 56・11
301	国防婦人会	藤井 忠俊	S 60・4
302	ヒトラーと第二次世界大戦	三宅 正樹	S 59・9
303	学徒出陣最後の早慶戦	笠原知夫・松尾俊治	S 55・4
304	病院船	大嶽 康子	S 14・9
305	関東軍参謀部	完倉 寿郎	S 60・8
306	中支湖南戦線とプーゲンピルの死闘	半沢 幸親	S 58・5
307	おかわいそうに	ルイス・ブッシュ	S 31・8
308	ビルマ戦	小宮 徳次	S 53・3
309	地の果てに死す	植松 仁作	S 51・1
310	特高の回想	宮下弘・伊藤隆・ 中村智子	S 53・6
311	ナガサキの証言	鎌田 定夫	S 50・7
312	監軍護法の鬼たち	椿 英児	S 57・8
313	海の城	渡辺 清	S 44・11
314	ガダルカナル敢闘記	柏木 啓一	S 19・1
315	人柱	中村 一雄	S 42・8
316	虜人日記	小松 真一	S 50・6
317	奈津子 11 戈の夏へ刻む	瀬川 満夫	H 3・11
318	中国大陸の日本兵		S 53・10
319	私の墓標	山岸 督郎	S 47・1
320	参謀	安倍 光男	S 28・3
321	ヒロシマ	ジョン・ハーシー	S 24・4
322	烈日サイパン島	白井 文吾	S 54・3
323	大阪の戦争遺跡		S 62・7

324	村と戦争	黒田 俊雄	S 63・12
325	自刃記録	大東塾 14 烈士	S 30・8
326	空のかなたに	朝日新聞西部本社	H 2・4
327	カ子 チャーズ	遠藤 誉	S 59・7
328	色のない花	千田 夏光	S 59・4
329	東條英機と天皇の時代 (上)	保阪 正康	S 54・12
330	タラカン島戦記	宮地 喬	S 57・4
334	東部ニューギニア戦記	鈴木 正己	S 57・7
335	中国戦線私記	伊藤 勝	S 56・10
336	同日同刻	山田風太郎	S 54・8
337	東條秘書官機密日誌	赤松 貞雄	S 60・8
338	戦争と女優	工藤 正治	S 46・11
339	東條英機と天皇の時代 (下)	保阪 正康	S 55・1
340	工兵第二十三連隊記録		S 51・3
341	工兵第二十三連隊記録		S 54・5
342	体験の仏教 9	浅川 治康	S 49・7
343	沖縄の日本軍	大島 幸夫	S 50・8
344	楯 ほだび 火	岡村 俊彦	S 36・5
345	暗い夜の記念	風間道太郎	S 56・1
346	残留日本兵の真実	林 英一	H 19・7
347	回想 大平洋戦争	ウィリアム・マンチエスター	S 59・1
348	戦争紀行	杉山 市平	H 19・7
349	神を見た兵隊	牛尾 節夫	S 57・6
350	知覧特攻基地	永崎笙子・赤羽礼子	S 54・2
351	戦争の流れの中に	前田 雄二	S 57・8
352	中国ビルマ戦記	菊地 重規	S 54・10
353	武漢兵站	山下 清吉	S 53・12

354	ある逃亡兵の告白	丹野 吉一	S 64・10
355	さすらいの〈未復員〉	吉永 春子	S 62・7
356	日中戦争	森金 千秋	S 57・8
357	ある日赤紙が来て	真鍋 元之	S 56・7
358	タブナン	マヌエル・F・セグーラ 大野 芳訳	S 63・
359	ニューギニア戦追憶記	星野 一雄	S 57・9
340	明日への道	横井 庄一	S 49・2
341	慟哭の満州	橋本カツ子	S 53・8
342	この平和への願い	信濃毎日新聞社	S 51・4
343	私の空襲体験	山本 一哉	S 44・8
344	華南戦記	越智 春海	
345	シンガポール戦記	荒井 三男	S 59・1
346	戦争栄養失調症	青木 徹	S 54・5
347	馬の骨放浪記	山田 勝三	
348	銃後の戦史	野添 憲治	S 52・8
349	むらの戦時記録	鶴ヶ島町史編さん室	S 55・3
350	平和の礎 全 23 巻	平和記録事業特別基金	
351	戦を知らない世代へ 全 56 巻	創価学会青年部出版委員会	
352			
353			
354			
355			
356			
357			
358			
359			
360			

④ 創 作 思い描いた創作のものがたり

1	坂口安吾集	坂口 安吾	S 50・7
2	木の話	蓮原 昭	H 3・12
3	九州うまいもの旅	楠本憲吉・友清高志	S 55・10
4	世界一周の誕生	園田 英弘	H 15・7
5	るーぷ幻想	もとむら睦花	H 12・11
6	鯨のはみがき	前田 拓郎	S 52・12
7	我が罪	宗方 慶司	H 12・12
8	踊り子	柳谷ひさ子	H 16・8
9	glass prison グラスプリズン	浜口 剛	H 15・8
10	大隈言道の桜	桑原 廉靖	H 4・5
11	K I M O N O 幻想曲	伊賀 律子	H 13・9
12	春はブルーレースとともに	北原梯二郎・世良田静江	H 5・11
13	白い時差	中島 敏彦	H 7・8
14	寺田寅彦「ローマ字の巻」	鴻江洋明編	S 62・12
15	久留米ラーメン物語	原 達郎	H 11・9
16	三井家の人びと	小島 直記	S 38・8
17	間法	井上 悟	S 54・2
18	〈ガン〉を生きる	田中 義文	S 62・4
19	あなたはクセで生きている	軽部 拓	H 16・7
20	紫式部日記の研究	木下 美	S 54・3
21	初老達の台湾旅行	吉富 徳	S 59・2
22	鏡の中の休日	新 昌良	H 3・8
23	抜萃のつゞり その二十五	熊平 源蔵	S 40・2
24	屁糞蔓 坂本茂木特集号	へくそかずら同人会	H 15・7
25	医師ギオン	ハンス・カロッサ 著 野村豊太郎 訳	H 13・

26	回顧 南欧かけある記	伊藤 薫	H 4・
27	旅果てしなく	中島 敏彦	S 58・1
28	旅	やひめ文庫	H 5・3
29	訪中記1～7	八女地区日中友好協会	H 7～
30	長江・三峡下りの旅	日中友好訪中団	H 8・
31	新中国の旅	堀川 正通	S 53・11
32	マイ・ワンダフル・30 デイズ	古賀 敬一	H 8・12
33	十字架のある風景	宗方 慶司	H 16・9
34	親善の輪	吉富 徳	S 62・10
35	一筋に燃える	東 邦次郎	S 59・4
36	生活にゆとりを住みよい村づくり運動	榊 正弘	H 11・6
37	鱗雲	和田 伝	S 32・9
38	由布岳	加藤田 務	H 4・8
39	秋月賛歌	椎窓 猛	H 12・11
40	八女・井上三綱展		H 13・11
41	坂本繁二郎画伯をたたえて	八女文化連盟	H 15・5
42	書歴六十年書の回顧展図録	平島 桂仙	H 9・9
43	画・文集 惜別	菊池 光恵	H 16・6
44	吉田民尚画集	吉田 民尚	H 9・3
45	乙女座のピアス	城 はるみ	H 7・8
46	英雄医談	王丸 勇	S 47・9
47	英雄天才秘話	王丸 勇	S 53・6
48	トランプ国の13日	いとうまきこ	
49	横井小楠	堤 克彦	H 11・3
50	去年しくろく	椎窓 猛	H 13・8
51	マイ・コロンブス・デイ	〃	S 53・11
52	山峡に生きる椎の葉のような哀歌	〃	S 57・12

53	雑文集もぐらの唄	椎窓 猛	S 43・9
54	山峡ろまねすく	〃	H 9・1
55	山峡木契録	〃	H 11・6
56	ムササビ	〃	H 16・9
57	X電車に乗って	村田喜代子	H 11・6
58	ロードトークコレクション	古賀 一成	H 1・3
59	つれづれの記	的場 恒孝	H 13・3
60	関門海峡	古川 薫	H 5・12
61	事件 1999 - 2000	佐木隆三・永守良孝	H 12・12
62	清張古代游記 吉野ヶ里と邪馬台国	松本 清張	H 5・11
63	ヤポネシア考	島尾 敏雄	H 3・11
64	風の王国	五木 寛之	S 60・1
65	五島崩れ	森 禮子	S 55・3
66	「一業一貫」の経営	中村堅太郎	H 55・6
67	フリーライターになろう!	〃	H 6・6
68	正々堂々を生きた男	〃	H 12・9
69	人生お一人様一回限り	〃	H 6・6
70	衆知を集めて「素敵」を創る	〃	H 15・8
71	プロカメラマンになろう!	〃	H 6・9
72	「素敵」を売る。「納得」を頂く	〃	H 13・1
73	長崎けんみん信組の新航路	〃	H 10・11
74	郷に入って、郷に屈せず	〃	H 9・11
75	素敵商売十四話	〃	H 6・7
76	私の街 私の時代	久留米郷土研究会	H 1・11
77	故郷へー南薩沿線ー	樋渡 直竹	S 59・2
78	ぼくのアジア地図	岡 友幸	H 7・9
79	歴史の町並み事典	吉田 桂二	H 7・9

80	写真集 三池街道	井手将夫・新藤東洋男	S 60・8
81	下川都一郎・研 父子展		
82	博多、あの頃	石橋源一郎・波多江五兵衛	S 52・5
83	ふるさとさがし	張 敏	H 12・2
84	西島伊佐雄画文集 すんまっせん	西島伊三雄	H 5・3
85	聖福寮の子どもたち	いしが のぶこ	H 1・8
86	やっちょうき	そのだ まさじ	S 58・8
87	ヒロちゃん空を飛ぶ	ながとひろし・よしえヒロミ	H 16・8
88	私の絵手紙日記	原田 寛子	H 16・10
89	平井光典水墨画帖	平井 光典	S 62・4
90	チャーチル会 30 周年記念誌	CC久留米	H 5・6
91	彫塑と画集	大津留依子	H 8・7
92	日本わらべ歌全集・福岡のわらべ歌	友野晃一郎	S 63・12
93	霧の湯布院から	高見 乾司	H 7・8
94	愛そのものになる (I)~(III)	高橋 弘二	H 6・8
95	九州河童紀行	久本 三多	H 5・4
96	天国へのメール	大内 優子	H 13・1
97	風花を見つめて	渡辺 要三	S 62・7
98	インカの謎に惹かれて	〃	S 63・12
99	心月抄	下川 弘義	S 61・8
100	クワイ河の虜	小野木祥之 訳	H 8・6
101	アフリカ子連れ旅	松岡 邦興	H 6・11
102	人類への警告	飯田 直	H 12・8
103	江南紀行	森田 勇造	H 12・2
104	だからお店は面白い	たかはた けいこ	H 16・3
105	こぼるるみひかり	橋爪 勇哲	H 3・9
106	ムーランルージュの時代	神山 宏	H 15・7

107	感性の絵巻 仲町貞子	田中 俊廣	H 16・5
108	顔が変われば人生が変わる	掘 逸郎	H 16・10
109	プチ断食ダイエット	いしはら ゆうみ	H 14・12
110	苦言をひとつ〜若狭からのメッセージ	石黒 順二	H 15・11
111	相邑美佐江のヒーリングデザイン	相邑 美佐江	H 15・5
112	素晴らしきお産	谷口 祐司	H 6・4
113	余韻に美あり 中村旭国聞書	谷口 治達	S 63・6
114	神風連実記	荒木 精之	S 46・11
115	歯医者のおくが 怖くて歯医者に行けない理由	谷口 清	H 12・9
116	琵琶という二字	金子 厚男	S 58・11
117	今浦島	原田 喜示	H 17・3
118	リカに命をわけてください	宇津木 登	S 54・2
119	葉は落ちて根に帰る	片岡 稔恵	H 7・6
120	歯は中枢だった	村津 和正	H 14・2
121	逆戦災孤児	市川 倭	H 16・4
122	M 64 ~ある人形のオデュッセイア~	木村せせり	H 16・7
123	朧草子	柊 洪作	H 15・12
124	僕のスタンス	中田 幸作	H 12・9
125	いのちをつないで	賀久 はつ	H 12・2
126	CARTOONS ちょっとヒトコマ	坂井せいごう	S 14・6
127	甲泉漢詩集	八木 幸吉	H 15・3
128	江南三大名楼とその周辺 漢詩紀行	牛島 景資	H 17・2
129	江南漢詩紀行	〃	H 14・6
130	通りゃんせ	中嶋 恵子	H 10・11
131	荒野の風に吹かれて	紀元 一人	H 9・10
132	育みて 今	永井 暢一	H 12・7

133	海の病棟	武藤 泰勝	H 9・9
134	四階の小さな踊り場	山田 敦心	H 9・4
135	商人道	長谷川裕一	S 55・4
136	渦巻	手島 眞	H 17・3
137	生涯学習	草野 實	H 17・3
138	愛の白道	愛の白道刊行会	S 43・2
139	わが公民館の歳月	林 克馬	S 40・9
140	四国巡礼	宮部 末吉	S 49・4
141	九州西国巡拝	〃	S 51・4
142	西国巡礼	〃	S 57・7
143	卑弥呼の霊に捧ぐ	日留 山人	S 57・8
144	日本破局のシナリオ	パラダイム・ファクトリー	H 7・12
145	悲恋の女王久津媛	福本 英城	H 11・10
146	応援します、あなたの旅立ち	大平 光代	H 14・2
147	直木三十五入門	福山 琢磨	H 17・2
148	監督の条件2	田村信三郎	S 55・5
149	息子・正哲との思い出	東 孝	H 13・10
150	北朝鮮の夜明け	大谷 深	H 6・8
151	幾山河	瀬島 龍三	H 8・8
152	金 泳三	小林 慶二	H 4・10
153	国会十年の歩み	伊江 朝雄	S 63・5
154	耳納北麓と京筑の史跡を求めて	山口 昌登	
155	肥後路を撮る	〃	
156	古代から現代までの北九州市	〃	
157	北野天満宮参堂の名所	〃	
158	むつみ会 第一巻	むつみ会	
159	韓国からの便り	倉橋 葉子	

160	その時私は	原田 喜示	H 14・10
161	日本のこころ	片岡 繁彦	H 14・8
162	群青 第6号	楠 の 会	H 17・4
163	アトム小品集	原田 喜示	H 16・7
164	戦争と若者たち	堤 克彦	S 49・10
165	高校の現場から	〃	H 7・9
166	横井小楠	〃	H 11・3
167	いのち響きあう	森崎 和江	H 10・4
168	青木繁・坂本繁二郎	谷口 治達	H 7・2
169	続々絵葉書集	鶴田 忠義	H 7・10
170	小さな花	綽 真唯子	H 15・3
171	画帖 緬甸(ビルマ)	西島伊三雄	H 15・11
172	海があるということは	川崎 洋	H 17・3
173	大人のための教科書のうた	〃	H 10・7
174	交わす言の葉	〃	H 14・11
175	詩集 ゴイサギが来た	〃	H 7・2
176	言葉のノート	〃	S 55・12
177	言葉遊びうた	川崎 洋	H 12・3
178	魚の名前	〃	H 16・12
179	旅ゆけば	〃	H 14・12
180	日本語探検	〃	H 7・6
181	日本の遊び歌	〃	H 6・9
182	日本方言詩集	〃	H 10・7
183	ひかるサケ	〃	H 2・4
184	不意の吊橋	〃	H 9・6
185	ママに会いたくて生まれてきた	〃	H 8・4
186	療原のこえ 民衆史の起点	色川 大吉	S 51・6

187	流転の民権家—村野常右衛門伝—	色川 大吉	S 55・10
188	ある昭和史—自分史の試み	〃	S 50・8
189	明治人その青春群像	〃	
190	流転の民俗学	〃	
191	歴史の方法	〃	S 52・10
192	北村透谷	〃	H 6・4
193	民権百年	〃	S 59・5
194	柳田国男	〃	S 53・2
195	明治人	〃	S 53・6
196	水俣の啓示	〃	S 58・7
197	昭和史と天皇	〃	H 3・7
198	日本縦断	〃	S 52・11
199	自由民権	〃	S 56・4
200	自由民権の地下水	〃	H 2・5
201	わたつみの友へ	〃	H 5・11
202	民衆史 その100年	〃	H 3・11
203	歴史の方法	〃	H 4・5
204	自分史 その理念と試み	〃	
205	ならば私が黒字にしよう	高塚 猛	H 15・8
206	高塚猛の実践「企業よみがえり学」講義	〃	H 15・1
207	NEW人の「意識」が変わるグランドマネジメント	〃	H 15・2
208	尾形光琳 江戸の天才絵師	飛鳥井頼道	H 16・10
209	新日本永代蔵	船橋 晴雄	H 15・4
210	イカロスの墜落のある風景	〃	S 58・7
211	日本経済の故郷を歩く	〃	H 12・6
212	あらためて経済の原点を考える	〃	H 13・12
213	岡崎嘉平太伝	岡崎嘉平太刊行会	H 4・8

214	誠意・創意・熱意	井本 勇	H 6・7
215	花と技術のまちづくり	辺見 敏之	S 60・3
216	男でござる 風の巻	細川 隆元	S 56・5
217	〃 龍の巻	〃	〃
218	「人材」と「お客」はいくらでもつくれる	高塚 猛	H 16・4
219	「伸びる人」の法則	〃	H 16・2
220	小島善三郎 資料集	福岡市美術館編	H 10・12
221	山崎朝雲 資料集	〃	S 62・3
222	保存版 山頭火	石 寒太編	H 10・6
223	山東火の世界	穴井 太	H 2・1
224	俳人山頭火の生涯	大山 澄太	S 58・1
225	山頭火と心友木村緑平	仲江 健治	H 10・10
226	放浪の俳人 山頭火	村上 護	S 63・8
227	わたしの山頭火	朝日新聞山口支局編	H 2・6
228	種田山頭火	村上 護	H 5・6
229	山頭火の道	大山 澄太	S 58・4
230	山本健吉俳句読本 1～5	山本 健吉	H 5・5
231	届かなかったラブレター		H 15・12
232	現代女流川柳鑑賞事典		H 18・10
233	あしあと	古賀 次夫	H 10・10
234	チャコと私のこころの旅物語	水城 央	H 16・1
235	宮崎兄弟伝 アジア篇 (下)	上村希望雄	H 11・3
236	春菜のおくりもの	高松真理子・波多江伸子	H 12・6
237	人と契らば濃く契れ	根元 順善	H 12・9
238	村岡安吉伝	村岡 安廣	S 59・11
239	大河を遡る	古賀 勝	H 12・10
240	坂本善三美術館建設物語	小国町役場	H 7・10

241	現代の名工たち	岬 茫洋	H 2・11
242	岬の人	三木 一雄	H 3・8
243	ふくおか人物誌(1) 貝原益軒	ふくおか人物誌編集委員会	H 5・7
244	明治の気骨利光鶴松伝	渡辺 行男	H 12・8
245	日本占領下・インドネシア旅芸人の記録	猪俣 良樹	H 8・9
246	現代の職人	石山 修武	H 3・2
247	漂泊者のアリア	古川 薫	H 2・10
248	ふるさと直方人物誌	舌間 信夫	H 5・10
249	西武ライオンズ	河村 英文	S 58・4
250	随筆ふきのとう	石橋 正良	S 54・3
251	ありがとう 4	RKB 毎日放送	H 9・6
252	八女の職人ことば	松田 久彦	S 61・11
253	北ウイング	中島 敏彦	S 63・3
254	いのちをうたう	古田 和弘	H 17・5
255	紫水	紫 水 会	H 13・7
256	カッパ漫談	森山 靖章	
257	漢詩集	主計 計扇	H 10・3
258	宣長残照・山桜の夢	藤井 滋生	H 14・3
259	正統三河武士の最期	芝 泰子	H 6・10
260	八十歳の軍師寺井玄溪	松本 順司	H 15・9
261	武弁詩懐	船木 捷彦	
262	随想 山陰つれづれ	酒井 董美	H 15・8
263	君への贈りもの	河端 洋安	
264	人生と念仏	寺山 文融	
265	午後の大回廊	渡辺 斉	
266	みやこという宇宙	園田 英弘	
267	空のおばさん	田熊 正子	

268	世界一周の誕生	園田 英弘	
269	医者のうちた	岩永 保人	S 63・3
270	節くれの指	星野 秀水	H 17・8
271	炎の村へ	永延 幹男	S 61・4
272	続・水明書院主人文集	三原 温・智	H 17・2
273	古川利三郎想い出画集	古川 夕力	H 17・7
274	マワリテメクル小宇宙	岡部 賢二	H 17・9
275	石の花	藤井 信幸	H 9・3
276	原爆 ある被爆医師の証言	服部達太郎	S 44・8
277	谷口弥三郎伝	荒木 精之	S 39・12
278	彷徨と回帰	中野 章子	H 7・5
279	流されゆく日々 1975～1987	五木 寛之	H 7・5
280	流されゆく日々 1988～1995	五木 寛之	H 7・5
281	ふるさと語情報館	川崎 洋	S 56・6
282	蓮如物語	五木 寛之	H 7・11
283	うねりの時代	小川 義勝	H 9・
284	着信人払い地球郵便局	田部 光子	S 59・8
285	その時どきに心を込めて	富田 英壽	H 16・2
286	梅は寒苦を経て清香を発す	富田 英壽	H 16・10
287	聴心記	武見 太郎	S 53・9
288	往診よもやま話	福岡市内科医会	S 47・4
289	検事物語	樫田 忠美	S 31・5
290	東南アジアを廻って	久原 忠夫	S 35・5
291	診察室うらおもて	三浦 隆蔵	S 35・9
292	まむしのたわごと	金原 一郎	S 39・8
293	まむしのたわごと第二集	金原 一郎	S 40・10
294	続田舎産婦人科医の珍話	本田 勝信	S 54・7

295	白露も夢も	小川 義勝	
296	道 標	小川 義勝	
297	草 枕	小川 義勝	
298	花 標	小川 義勝	
300	群青第7号	文芸宗像楠の会	H 18・4
301	芭蕉さんの悪戯	八女川 瀬	H 18・3
302	文章歩道	高 遠 書 房	H 18・4
303	子の心親知らず	船木 英示	H 7・1
304	文章歩道 春号・夏号	高遠書房	H 18・1~
305	三十九年目の判決	宮永 偉文	H 4・5
306	播磨の寛延一揆	田 靡 新	H 7・7
307	館長漫調 第2巻	貞森比呂志	H 14・4
308	画文集 孫の所望	白武留康・中村ちひろ	H 13・4
309	バルビソンの道	高橋甲四郎	H 18・1
310	ひぐらしが啼き止んで	西村 虎治	H 14・3
311	みかんの花咲く丘	西村 虎治	H 16・11
312	花のうた	貞刈みどり	H 17・10
313	心のうた	貞刈みどり	H 10・8
314	北の追憶	櫻田 正樹	H 3・2
315	妄想スケッチ	久保田力オル	H 19・5
316	旅と夢と散策と	坂内 昇	H 19・5
317	こころの摘み草	稗田チツ子	H 19・5
318	紫水 No28	紫 水 会	H 19・7
319	裏切りの協奏曲	宗方 慶司	H 19・8
320	縄文風花記	岩元 末治	H 19・8
321	復権か従属か	秋吉久紀夫	H 17・6
322	ティンサ	根本百合子	H 19・7

323	風の牧場	多賀 浪砂	H 18・12
324	なんでバイバイするとやか?	ごとうひろし	H 20・3
325	あなたの笑顔がみたくて	龍 一郎・李恵	H 18・3
326	夢鳳水墨画集	詫間 文男	H 4・6
327	津留誠一作品集	津留 誠一	H 13・2
328	團さんの夢	中野 政則	H 15・4
329	青春の刻	有田 一寿	H 4・3
330	はいぬづか	世良田静江	H 20・9
331	高橋常雄作品集	高橋 富枝	H 12・5
332	街角の四季	森 眞吾	H 19・7
333	福、徳、貧乏、幸い	門田 保慶	H 19・1
334	黄砂ふる街	森 眞吾	H 18・11
335	坂本龍馬暗殺異伝	和田 武久	H 20・9
336	火の音	有森 信二	H 20・9
337	大家クレパス画集	藤 井 (株)	S 55・9
338	ペルーの旅から	前田 拓郎	H 4・9
339	前田拓郎写真集		H 1・11
340	石橋明 50 周年記念画集		H 22・5
341	夫婦茶碗	池田 義則	H 21・9
342	千代の松原	岡部 信彦	H 8・10
343	前進中に死ぬこと	萩原 義郷	H 11・7
344	梅が香に	高瀬美代子	H 21・10
345	花のうた	貞刈みどり・戸田幸一	H 17・10
346	節くれの指	星野 秀水	H 17・8
347	渥美幸裕画集	渥美 幸裕	H 24・6
348	中洲交番日誌	森田 利夫	H 9・10
349	デイサービスワークブック (1)	緒方 昭一	H 21・10

350	デイサービスワークブック (2)	緒方 昭一	H 22・6
351	寺田寅彦	鴻江洋明編	H 6・8
352	こだまする着物	伊賀 律子	H 24・7
353	井口保画集	井口 保	H 18・3
354	古賀耕兎作品集	古賀 耕兎	H 24・6
355	山崎勉作品集	山崎 勉	H 12・6
356	水墨画作品集	中島美代子	H 24・9
357	骨董・慶世羅せら	服部 豊文	H 24・10
358	視点学のすすめ	内野 健一	H 24・10
359	これが字漫たい	ばんば三郎	H 8・7
360	中国漢詩紀行	牛島 景資	H 25・7
361	花束 No4 ~	花 束 会	T 12・4
362	広報マンのつぶやき	下田 高大	H 14・9
363	漢字面白帳	長野 正	S 58・11
364	人物記者手帖	花田 衛	H 5・9
365	鈍刀を磨いて	小川 直人	H 21・3
366	エッセイ集 歳月	永家 光雄	H 25・1
367	手島文雄木版画集	手島 文雄	H 26・3
368	田代喜玖生作品集	田代喜玖生	H 26・3
369	筑後耳納山麓	井口 益次	H 23・2
370	柿原 聡 画集		H 25・8
371	夢限りなく	助廣 克彦	H 27・1
372	南無	正明寺はちす会	S 62・9
373	手のなかの暦	澤地 久枝	S 59・11
374	逢わばや見ばや	出久根達郎	H 9・6
375	わが師 山本周五郎	早乙女 貢	H 15・6
376	銀座に生きる	鈴木真砂女	H 10・11

377	お稲荷さん路地	鈴木真砂女	H 11・7
378	寒光届かず	吉良 幸生	H 16・4
379	沈み 橋を渡る	吉良 幸生	H 23・5
380	詩情の山	高橋 孝	S 39・10
381			
382			
383			
384			
385			
386			
387			
388			
389			
390			
391			
392			
393			
394			
395			
396			
397			
398			
399			
400			
401			
402			
403			

⑤ 歌集・句集・詩集 詩・歌・句に託したいのちのなりわい

歌集

1	涉りゆかむ	斎藤 史	S 60・9
2	歌集 屋上の椅子	木下千冬・木下浪江	S 60・12
3	歌集 黒木	菊池 剣	S 55・9
4	菊池剣全歌集	〃	H 7・9
5	中島哀浪全歌集	中島 哀浪	H 3・1
6	春風のように	内藤 賢司	S 63・8
7	歌集 花ばさみ	幸口はつき	S 54・2
8	歌集 歲月	〃	S 62・2
9	歌集 老楠	吉武 喜一	S 60・4
10	歌集 回帰	西原 忠毅	H 11・7
11	十五周年記念合同歌集	かささぎ短歌会	S 46・2
12	二十五周年 〃	〃	S 55・11
13	三十周年 〃	〃	S 61・2
14	四十周年 〃	〃	H 7・1
15	歌集 楽もかつがつ苦もかつがつ	吉田 とし	H 15・7
16	香煙	三小田浩子	S 53・10
17	畦道	古賀 弓子	S 61・11
18	歌集 山茶花	梶村 止	S 56・7
19	合同歌集 爰ぼし名	那珂公民館短歌講座	S 58・12
20	おもかげ	吉田 綾子	S 58・5
21	歌集 峡の虹	井上 雅生	S 50・2
22	歌文集 琉球	中村 行利	S 53・8
23	歌集 阿遊美	杉森 包子	H 11・9

24	歌集 常歌	杉森 彬	H 12・7
25	歌集 はげのみ	庄籠 正記	H 12・11
26	手鎌春秋里のうた	栗原とし子	H 14・7
27	めい想	蒲池ハルカ	S 51・12
28	歌集 法の華	中村 盛子	H 15・8
29	歌集 八十路の寝言	江島和可乃	H 12・7
30	歌集 つぶら実	山口 瑞枝	H 1・6
31	うた日記	遠藤 紗代	S 62・1
32	而立	那珂公民館短歌講座	H 10・11
33	歌集 つぐり	岩瀬 昌二	S 58・12
34	歌集 燈炬	丸山 保則	H 7・8
35	古稀を迎えてーこの命ある限りー	野田キク工	S 63・10
36	歌集 藤（第一集）	黒木短歌会	H 13・12
37	うた日記抄	桑原 春代	S 50・3
38	歌集 老後のたわごと	田崎 貞吉	S 61・9
39	金言名歌集	中島 梧桐	S 62・
40	歌集 芥火	菊池 剣	S 37・4
41	合同歌集 山籟	やまなみ短歌会	S 58・1
42	合同歌集 頂	〃	S 49・8
43	合同歌集 林道	〃	S 53・9
44	歌集 白日	前田 博	S 27・4
45	歌集 木工のまち	平島 初男	H 12・8
46	石橋武子集	石橋征男編	H 13・4
47	歌集 花の譜	厨 ミチヨ	S 56・12
48	歌集 五十年	服部 照子	H 12・12
49	生きがいのうた	中島 梧桐	H 6・1
50	古賀四郎歌集	古賀 四郎	S 60・4

51	生かされ生きる	速水みきえ	H 16・6
52	村松幸子歌集 道	村松 幸子	H 16・8
53	歌集 両手握れば	大坪 公子	
54	言葉湧きこよ	小川 房子	H 16・10
55	もちの木	橋爪 惇	
56	歌集生かされて	みずかみかずよ	S 63・9
57	鶴唳	藤吉 宏子	H 16・9
58	歌集あめんぼう	日刈 琢史	H 16・7
59	紫陽花	浦かつみ・才所久子	H 14・12
60	沙羅双樹	畑田ミネ子	H 14・11
61	歩行 1～15	内藤 賢司	H 2～
62	姿勢	毛利 文平	S 36・11
63	銀化無限	木下 正美	H 11・9
64	塵中塵外	〃	H 5・7
65	天門	〃	H 15・5
66	地下茎	〃	S 55・4
67	蟻の道	東出 紙魚	S 56・12
68	疎林の丘	鶴 龍廣	H 8・8
69	蓮の花	朝倉 勝典	S 55・5
70	黒田の渡し	森山 博	S 53・2
71	夏山	大河原惇行	S 53・2
72	赤星端詩歌文集	赤星 端	S 55・10
73	しのぶぐさ	貞苅 宗敏	S 50・10
74	蝉しぐれ	三小田浩子	S 52・2
75	詠草わが星霜	森 千秋	H 6・9
76	谷蟆の歌	谷 蟆生	H 2・4
77	山彦の歌	〃	H 3・12

78	天雲の歌	谷 蟻生	H 6・2
79	白鳥の歌	〃	H 11・2
80	宮中歌会始	菊葉文化協会	H 7・3
81	釣鐘山	波良杜子於	H 8・5
82	夢の触手	野田 光介	H 14・3
83	全人的	手島 一路	S 51・7
84	雲表	持田 勝穂	H 4・9
85	肋断つ	近藤 隆司	S 52・7
86	森のやうに獣のやうに	河野 裕子	S 62・11
87	樺みすず歌集	樺 みすず	S 63・11
88	満月の夜	蓮尾和寿子	H 13・6
89	金港	大川 知治	S 63・6
90	残燈	日加田 誠	H 5・8
91	白き玉繭	手島 一路	S 56・11
92	月光	近江屋愛子	H 17・3
93	川下る蟹	桑原 廉靖	S 56・12
94	春蘭	三小田浩子	S 50・10
95	合同短歌集	筑後短歌くらぶ	H 17・1
96	短歌ルネッサンス Vol.1	田村 武士	H 13・1
97	紙漉きの歌	高山 道之	
98	あめんぼう	日刈 琢史	
99	歌集 道	村松 幸子	
100	歌集 あじさい	あじさい短歌会	S 52・7
101	歌集 花ばさみ	粟生 冬	S 54・2
102	歌集 水鏡	水谷 邦雄	S 55・5
103	合同歌集 狭霧	円 短歌会	S 54・10
104	手間歌集 むらさき	九州大谷短期大学	

105	歌集 あぶりだし	鍋島 幹夫	S 56・7
106	歌集 潮	中川原 政次	S 58・11
107	歌集 電照菊	久保田 藤代	S 63・7
108	歌集 春風のように	内藤 賢司	S 63・9
109	歌集 山に向かって	尾畑 吉秋	H 2・6
110	うた日記抄	桑原 春代	S 50・3
111	歌集 銀のライター	藤本準策遺稿	H 17・10
112	妻よ	藤井 銀蔵	H 10・9
113	火の匂い	角 忠太	H 9・6
114	弥生光	百田 和	H 10・6
115	歌集 女王蜂	近藤 喜造	H 7・7
116	青銅の鶴	柴崎 久資	S 62・10
117	石路の花影	栗林喜美子	H 12・1
118	青き末練	有田 秀子	H 13・4
119	若狭の海	奥本 守	H 13・3
120	風の森	吉富 徳	H 17・10
121	ひとすじの道	野上 栞	H 17・10
122	歌集 宿命	川田 順	S 61・4
123	一つの構図	川岡 五六	S 55・5
124	折りをりの歌	江上 芳枝	H 18・5
125	歌集 吹生	塩塚 常樹	H 18・5
126	稲づくりの歌	国武 正彦	H 18・4
127	風の森	吉富 徳	H 18・6
128	冬の構図	加野 靖典	H 1・9
129	羅針盤	加野 靖典	H 1・9
130	在宅酸素	大坪 公子	H 18・3
131	楠若葉	金子 米子	H 11・6

132	生かされて	奥本 守	H 18・7
133	水毬	和田 明江	H 10・11
134	一路	志岐 信次	H 4・12
135	明日の森	中山 陽右	H 5・7
136	蒼き座標	野中 暁	H 12・12
137	牟寿	丹下 藹基	H 13・9
138	今村清子遺歌集	今 村 家	H 13・1
139	若葉照る朝	木原 洋子	H 12・8
140	澄める瞳と	井上美保子	S 61・6
141	花と短歌 365 日	鳥海 昭子	H 18・5
142	夢幻の華	上村 忠雄	H 13・7
143	サビタの鈴	深野 幸代	H 12・1
144	歌集 夕光	新川美恵子	H 16・5
145	天心	佐藤 通雅	H 11・4
146	歌集 夜街	清島あつ子	H 14・11
147	卯月菜の花	江上 栄子	S 61・3
148	愛しくて	前岡多美子	H 15・8
149	針尾に集ふ	浦岡 薫	H 11・10
150	僕と摸	久津 晃	H 1・8
151	肥前の新しい歌枕	白鷺短歌会・潮鳴り短歌会	H 3・10
152	「やぶれがさ」「多多良」	山埜井喜美枝	H 9・11
153	孔雀都市	久津 晃	H 12・6
154	火渡り	山埜井喜美枝	H 6・6
155	六花	山埜井喜美枝	H 3・8
156	呉藍	山埜井喜美枝	S 61・10
157	天の雫	上村 忠雄	H 19・7
158	農婦の眩き	毛利キヨ子	H 5・1

159	白仁秋津の世界	白仁秋津を顕彰する会	H 19・6
160	パン皿	宮田 久子	H 11・10
161	野紺菊	河口美沙子	H 19・10
162	歌集 藤 (第二集)	黒木短歌会	H 20・1
163	日々のかたち	内藤 賢司	H 20・1
164	夜又五倍子	平井 保	S 58・2
165	歌集 寒牡丹	永松 典子	H 17・12
166	夢ならば	中嶋輝洋子	H 18・11
167	福耳	古賀ひで子	H 20・6
168	紙漉きの歌	高山 道之	S 18
169	あめんぼう	日刈 琢史	H 16・4
170	鱗雲	立花 進	H 12・1
171	草の分際	金子 きみ	H 17・10
172	スリリと啼きて	今岡 澤美	H 18・10
173	企救小詠	添田 博彬	H 20・9
174	万華鏡	永利登志子	H 21・3
175	木洩日の坂	浜畑 松枝	H 15・5
176	天の妙音	松島 八郎	H 7・9
177	思い出のうた	橋爪カズ正	H 21・4
178	微風呼ぶ街	桜井 秀・つね	S 43・11
179	風標	江島彦四郎	S 48・11
180	字母	田中 敬治	S 49・8
181	不知火	水 甕	S 53・1
182	一筋の道	上村 忠雄	H 21・6
183	ねこじゃらし	篠原まり子	H 17・10
184	去来の風	水島 汲雄	H 17・5
185	白磁の韻	田中優紀子	S 42・10

186	冬の葡萄	竹井 千代	H 15・3
187	独りの道	松井 スミ	S 53・9
188	ゆめあはせ	恒成美代子	H 14・5
189	二生	森重香代子	H 17・4
190	小春日和	恒成美代子	H 18・6
191	花も花なる	貞刈みどり	H 20・6
192	サラン	キム英子ヨンジャ	H 17・3
193	残燈	目加田 誠	H 5・12
194	月日のほとり	古賀 弓子	H 22・6
195	男の土産	北帆 桃子	H 18・4
196	小郡歌壇	小郡短歌会	H 23・4
197	いのちの砦	上村 忠雄	H 23・7
198	詠草わが星霜	森 千秋	H 6・9
199	歌集露天風呂	中島輝洋子	H 12・5
200	夢ならば	中島輝洋子	H 18・11
201	白鳥よ	藤岡 成子	H 21・9
202	子らよ羽ばたけ	秋吉 信子	H 17・10
212	風船かづら	野瀬 久子	H 24・7
213	蒼き座標	野中 暁	H 12・12
214	秋 雪	国崎望久太郎	S 61・12
215	刈原の池	倉富 綾子	H 10・2
216	石路の花影	栗林喜美子	H 12・1
217	樹下の舞	森田 紘生	H 3・12
218	象	平田 章	S 48
219	素焼きの甕	渡 ゆみ	H 17・3
220	樹層以後	吉武 俊子	H 7・8
221	恒 沙	松浦 哲	H 24・4

222	一弦の風	岡松 克博	H 17・9
223	生きる	西林 幸子	H 22・10
224	メビウスの帯	藤吉 宏子	H 5・12
225	若 夏	沖縄県歌人会編	H 24・9
226	しろしき日	岡 一輻	H 24・6
227	トキコ抄	〃	H 24・6
228	鞆 鞆	〃	H 25・3
229	合同歌集 白南風	筑後短歌会	H 26・1
230	日日是好日	藏本ミチ子	H 26・3
231	催花雨	馬場タツ子	H 23・6
232	ひとりの春	篠原まり子	H 10・8
233	若駒たちの夏	岡 一輻	H 26・10
234	風の吹くまま	上村 忠雄	H 26・12
235	大銀杏 相撲の風景	岡 一輻	H 27・1
236	風の均衡	氷室 敬子	S 62・9
237	無名草花	吉泉 恒徳	H 27・2
238	半人半馬	野田 光介	H 28・10
239	うつつ川	柳 芳子	H 29・4
240	ぶつぶつと吐きながら	岡 一輻	H 30・7
241	坂田力自選短歌集	稲光にしき	R 1・9
242	夕あかり	野中ヨシ子	R 1・10
243	能登の鳶 くるりくるり	岡 一輻	R 1・11
244	福岡県歌人会合同歌集	福岡のひびき	R 3・2
245	月日のほとり	古賀 弓子	H 22・6
246	熊本美和子遺歌集	熊本美和子	R 4・2

句集

1	くすの実 第4・5・6・7集	吉泉恒徳編	
2	句集 青田風	中島 藤喜	H 2・12
3	句集 寒造り	高橋 克巳	S 61・10
4	風 雲	石田 鶴子	S 63・4
5	三十周年記念句集	久留米同人俳句会	H 1・11
6	句集 電照菊	久保田藤代	S 63・5
7	春吉句集	畑 春吉	S 57・2
8	句集 二千年	ひなの会	H 12・8
9	山峡ろまねすく	椎窓 猛	H 9・1
10	続句生涯 第三句集	宮崎 了乙	H 2・12
11	句集 春愁	三浦 絢子	H 16・3
12	記念句集	新泉句会	H 3・
13	たちばな集	栗木 橘	S 49・10
14	ガス燈	中島 敏彦	S 51・8
15	金印	岡部六弥太	H 12・12
16	てっせん花 堀サ子遺句集	堀 美子	H 8・5
17	句文集 白南風	加藤 其峰	S 56・10
18	句歌集 うつしみ (第二集)	北原つる女	H 1・3
19	草炎	山根 草炎	S 56・7
20	句集 菊菱	隈 潔太	S 54・8
21	句集 つゆくさ	杉田タマキ	H 12・5
22	石梨の木	宮 柗二	S 47・1
23	寂光土	調 輪山	S 57・3
24	短日	中尾 花聲	S 59・6
25	家	今村 俊三	S 47・1

26	県民文化祭 入選作品集	ふくおか県民文化祭	H 6・11
27	松鶺 潔 百句集	松鶺 潔	H 11・10
28	句集 老梅	猿渡 逸子	S 59・2
29	海月	児玉 孜	H 10・11
30	樹下の舞	森田 紘生	H 3・12
31	瓦礫	野崎 政夫	H 7・5
32	鴟	筑 後 句 会	S 49・10
33	句集 日々のあゆみ	井浦トキヨ	H 6・11
34	句集 鶴守	村田青羊女	S 50・5
35	句集 鷹柱	岡部六弥太	H 14・9
36	句集 手花火	鶺飼 礼子	S 57・3
37	〃 香木	〃	S 62・7
38	七七句集みじかい俳句	馬場 元志	H 15・8
39	湖の月	恒川和左子	H 16・2
40	道草	多田 孝江	H 12・6
41	草笛	多田 薫	H 12・6
44	木の葉髪	北星松延定之	S 60・
45	記念句集	新 泉 句 会	H 3・10
46	土秋百句	森 土秋	S 57・11
47	とびかた 創刊号	八女睦会	H 11・6
48	句集 初空	荒金 久平	H 18・9
49	句集 源流	中谷トク工	H 17・5
50	句集 千里を翔けて	中村 姫路	H 18・5
51	寅の色	波田 美城	H 18・7
52	句生涯	宮崎 了之	S 54・10
53	句集 石路坊主	山川 孝吉	S 55・6
54	句集 柳影	介弘 浩司	S 60・4

55	句集 地行の浜	秋山 好明	S 63・5
56	ひこうき雲	助廣 俊作	
57	台所からのひとり言	佐々木千鶴子	H 7・12
58	白游	つつみ眞乃	H 15・4
59	句文集かたりべ修羅の島	永田 呂邨	H 11・3
60	句集 老松	江頭伊三郎	H 8・7
61	江頭幸氏追悼誌	江頭 澄子	S 61・8
62	句集 八十路坂	椎原加寿子	H 14・8
63	緑の雨	平木 谷水	H 2・9
64	白雨会 合同句集		H 13・7
65	光と翳	山田 勇作	S 42・12
66	西原柳雨	井上 束	S 53・8
67	句文集 ガス燈	中島 敏彦	S 51・8
68	ひなげし	津野美都江	H 12・8
69	筑後川	南 熊太	S 42・10
70	へそ曲り	西村 衛	S 44・8
71	句文集	根城 晝夜	S 43・9
72	私の俳文	木村 律郎	S 34・8
73	雪間の草	吉泉 恒徳	H 16・10
74	九州寒雷合同句集	川島 品代	H 8・5
84	虹がうたう	橋本 輝雄	H 7・1
85	紅紅	峰尾 北兎	S 63・9
86	流紋	杉山 恵子	S 63・12
87	流萍遺作句集	吉村 照子	S 62・10
88	安曇の山河	柴田 長次	H 16・7
89	句集 系図	荒井千佐代	H 14・3
90	雲の旅	窪田 沙織	S 62・8

91	句集あさくら	古賀 幹人	H 19・4
92	八女津媛	西江 和子	H 10・6
93	鵜日和	井上 淑子	H 17・5
94	花信	岡部六弥太	H 19・7
95	臥龍梅	小島 春蘭	H 18・12
96	蜻蛉	多田 薫	H 18・12
97	寒垢離	太賀 良子	H 19・1
98	秋桜	多田 孝枝	H 18・12
99	森登風遺句集		S 61・2
100	山に向って	尾畑 吉秋	H 2・6
101	川柳句集	西村 正雄	H 6・10
102	川柳集	八女川柳会	H 22・1
103	山廬	大堀 孝	S 42・10
104	寸時鳥影	菊川 芳秋	S 52・8
105	詩句発句	織坂 幸治	H 15・8
106	鳥町	中島 昂	S 52・8
107	津留ひさし句集		S 53・8
108	津留ひろの句集		S 53・8
109	合同句集 松の花	松の花句会	S 62・4
110	天女降臨	有森 信二	H 22・1
111	身世打鈴	姜 琪東	H 9・10
112	一人静	堤 トシコ	H 23・7
113	八女津媛	木下 紀子	H 21・1
114	露の臺	森松まさ子	H 12・8
115	綾杉	本郷 草風	H 18・11
116	紫雲台	堤 八郎	H 45・1
117	俳句事始め	黒木 操	H 25・4

118	寒 昴	園田 篤子	H 23・4
119	素 描	廣瀬 雅男	H 20・10
120	玉 名	高本 和子	H 20・5
121	やさしい春	森 さかえ	H 19・12
122	野に遊ぶ	古賀 一弘	H 26・4
123	清冽の抄	鶴飼 礼子	H 25・3
124	句集 虹がうたう	橋本 輝雄	H 7・1
125	句集 風の遍路	佐藤のぶ子	H 27・12
126	ひこばえ	吉泉 守峰	H 28・4
127	川柳句集 魚拓	堤 日出緒	H 30・9
128	合同句集 みつまた	吉泉 守峰	H 30・10
129			

詩集

1	末世の相の中で	柿添 元	H 16・4
2	笑顔の花	室園 孝子	H 16・5
3	は ぜ	平田 友武	S 58・7
4	虫追い祭り	平田 友武	S 41・2
5	中学生	大串 強一	S 39・5
6	いのり	江島 政光	S 63・8
7	幻想	駒田 暎司	S 57・5
8	たいしたものではありません	島居 祐示	
9	深夜と白昼	内藤 賢司	S 53・
10	詩集 六十代	富田 淑	S 60・7
11	私じゃ恐い! この不気味な沈黙が恐い	吉田 正一	S 58・1
12	ことばの歩行	内藤 賢司	S 50・12
13	半分づつの夫婦	金子恵美子	H 42・10
14	霧の中	納塚 春夫	H 1・12
15	恥の譜	緒方 功	S 58・9
16	Habe Dank	中島 千浪	H 13・3
17	笑い仮面	今村 和美	S 47・5
18	残照	平田 友武	H 10・7
19	青い杉の実	北小6年杉の実グループ	H 16・10
20	花影	木下 圭子	H 10・11
21	望郷	谷口 謙	H 12・10
22	七夕伝説	渋谷 直美	S 10・12
23	春に瞑想するものたち	上村 育也	S 61・4
24	ALL SPICE	ALL SPICE の会	S 62・2
25	日本詩人全集5	佐藤左千夫・長塚節 島木赤彦・古泉千樞	S 43・8

26	古川嘉一詩集	古川 嘉一	H 12・4
27	たった一冊の詩集	須永 博士	H 6・9
28	Little Bird	柊 小町	H 11・9
29	才所三正先生作品集	才所 三正	H 8・1
30	詩集「幹」	椎窓 猛	H 5・3
31	想い草	中田 千郷	S 63・4
32	僕のこころの窓は 110 センチ	信山こと伊藤正史	
33	西日本戦後詩史	黒田 達也	S 62・11
34	くらっちゃった旅路どおりの詩 2	塚本 容山	H 11・11
35	〃 3	〃	H 12・9
36	〃 4	〃	H 13・8
37	詩画集 想い草	中田 千郷	S 63・4
38	西日本戦後詩史	黒田 達也	S 62・11
39	北極上空	〃	S 54・3
40	午後の大回廊	渡辺 斉	H 16・12
41	君への贈りもの	河端 洋安	H 13・7
42	TAIWAN	龍 秀美	H 11・12
43	きょうはあしたです	長野 正	H 17・10
44	現代詩入選作品集	国民文化祭小郡市実行委員会	H 16・11
45	献詩入選詩集	野田宇太郎顕彰会	H 14・10
46	丸山豊と「母音」の詩人たち I	野田宇太郎文学資料館	H 7・3
47	〃 II	〃	H 16・11
48	筑紫の詩人たち	野田宇太郎文学資料館	H 17・5
49	詩集 あぶりだし	鍋島 幹夫	S 56・7
50	失われた青春を求めて	吉岡 正一	S 58・5
51	八女の四季	平田 友武	
52	一日のレッスン	深町準之助	

53	考える木	深町準之助	
54	虫おいまつり	平田 友武	
55	中庭詩歌集	中庭の会	H 16・10
56	私の内なる島へ	進 一男	H 10・5
57	無窮の旅に抱擁された船乗りよ	古賀 健介	H 9・11
58	記憶の家	野田 恭子	H 17・6
59	越境する霧	若松丈太郎	H 16・5
60	晩鐘かすかに	秋山 喜文	H 17・9
61	上村肇自選詩集 わが海鳥の歌	上村 肇	H 17・10
62	冬のいろどり	吉原 光子	H 8・12
63	鵲声津屋崎センゲン	吉村 青春	H 18・2
64	う行の試練	助廣 俊作	H 18・4
74	北を去る	嶋田 一步	H 7・3
75	とんぼの空	長野 正	S 54・5
76	風にゆられて	丸尾のり子	H 15・4
77	あなた色	三山 徳子	H 17・11
78	セルロイドの下敷	和田 明江	H 13・11
79	呪幻	綾部 榎城	H 12・11
80	月光砂漠	松永 伍一	S 60・1
81	靴	奥田 和子	H 11・9
82	詩集 かるい眩暈	河本佐恵子	H 15・7
83	詩集 鐘子	原田 暎子	H 10・11
84	空の器	大石 陽次	H 16・4
85	詩集 老春の楯の火	田代 一成	H 13・6
86	詩集 行進曲<靴>	東 一秀	H 9・7
87	IN MY LIFE	山口 慶子	H 19・2
88	詩集 聖氷島	秋山 喜文	H 19・12

89	雫集	天乃雫	H 20・1
90	油屋のジョン	松永 伍一	S 61・6
91	トカゲの人	田島 安江	H 18・11
92	水の家	田島 安江	H 4・9
93	博多湾に霧の出る日は、	田島 安江	H 14・12
94	記憶の家	野田 恭子	H 17・6
95	美しい黒	田中 裕子	H 18・10
96	秋日和	杉 真理子	H 19・9
97	見えない潮	坪井 勝男	H 19・9
98	ピーキアホウ	脇川 郁也	H 19・11
99	午後の大回廊	渡辺 斉	H 16・12
100	抽斗にピストル	麻田 春太	H 19・9
101	北一輝の帽子	石川 敬大	H 14・11
102	九月、沛然として驟雨	石川 敬大	H 17・11
103	外を見るひと	梅田智江・谷内修三	
104	月子	原田 映子	H 20・7
105	シルクロード	秋吉久紀夫	H 16・8
106	そぞろおもい	中原 澄子	H 19・5
107	天景	織坂 幸治	H 9・4
108	終わりのない夏	門田 照子	H 19・10
109	時計	高松 文樹	H 19・10
110	黒い言葉	井本 元義	H 20・10
111	返らぬ日	宮崎 唯次	H 4・6
112	俺は開業医	中島 敏彦	H 7・8
113	球根	丸山 豊	S 58・3
114	松永伍一全景	松永 伍一	S 63・4
115	遺言	柿添 元	S 41・1

116	わが島	渡辺 斉	S 53・11
117	遠い声近い声	各務 章	H 14・12
118	午後の大回廊	渡辺 斉	H 16・12
119	博多湾に霧の出る日は	田島 安江	H 14・12
120	晩鐘かすかに	秋山 喜文	H 17・9
121	花のストイック	井本 元義	H 16・4
122	滑稽な鳥	尚 泰三郎	H 16・11
123	熊平武二詩集	熊平 武二	S 35・2
124	T A I W A N	龍 秀美	H 11・12
125	遠潮のうた	重藤 脩	S 51・11
126	美しい黒	田中 裕子	H 18・10
127	零地点	有森 信二	H 22・1
128	天使のハート	八二エル泉	H 20・7
129	ちょっと違うだけで	穴戸 節子	H 20・12
130	レモンの木	井上 文	H 19・7
131	ビーキアホウ	脇川 郁也	H 19・11
132	片方の手袋	各務 章	H 22・6
133	門田照子詩集		H 21・1
134	時間の岸辺	黒田 達也	S 46・7
135	夏至まで	吉貝 甚蔵	H 21・10
136	詩集蛇苺	山本 源太	H 18・2
137	無窮の旅に抱擁された船乗りよ	古賀 健介	H 9・11
138	新羅の壺	丹生 秋彦	H 5・3
139	兵隊オルフェ	荒木 力	H 13・11
140	虫の葉隠	西沢 杏子	H 13・4
141	ビーキアホウ	脇川 郁也	H 19・11
142	風になる	桐原 一成	H 4・10

143	ひこうき雲	助廣 俊作	H 11・12
144	バブルの子	助廣 俊作	H 26・6
146	傘寿を過ぎて	秋山 嘉文	H 28・8
146	聖氷島 vol56	秋山 嘉文	H 29・2
147			

⑥ 教 育 教育メソッドの進化

1	暁天の星影暮天の鴻	大石與三郎先生追懐記	S 50・4
2	ふるさとの教学茶話	大石喜八郎	S 59・2
3	継志堂物語	山口光郎編	S 58・12
4	教育寸話	大石喜八郎	S 60・2
5	梅野多喜蔵先生伝	浅野 陽吉	S 12・12
6	教育に生きる	富安 明	S 52・10
7	燃える学校	明石 羽久	S 51・3
8	一隅一照の人 小川禎先生遺稿集	八 幡 会	S 44・4
9	心の波に浮かぶもの	平島 市次	S 62・1
10	盲俳 水本兵吾先生の追憶	盲俳編集委員会	H 8・3
11	教学八女100年	大石喜八郎	H 4・3
12	飯干小だより・ちょっとひとこと	中村 富治	H 1～4
13	川崎小だより・ちょっとひとこと	〃	H 5～9
14	生活と文化	九州女子短期大学初等教育科	H 7・2
15	さくらの学校	八女郡黒木町立木屋小学校	S 63・
16	卒業研究	九州女子短期大学初等教育科	H 7・3
17	かがやけ未来の宝	九州文学会館	H 12・5
18	豆つぶ先生がんばる	瓜生 桂子	S 59・7
19	木造校舎で学んだ	向井 澄男	H 9・4
20	私は女教師	原田 八重	S 57・9
21	今教師に問われているもの	今宮 昌成	S 58・10
22	アマゾンに三年	白山 邦子	S 61・3
23	先輩の知恵 上巻・下巻	県養護学校	H 15・3
24	なにが何でも高校野球 I・II・III	大島 鴻	S 61・11
25	父親としての愛の書簡集	大槻 幹夫	S 59・4

26	学ぶ喜びを生み出す授業	福教大附属小	S 57・6
27	白墨浪漫II	上野 幹久	
28	教育為楽	野見山利雄	S 54・7
29	波多野先生の思い出	渡辺正記光山利雄編	H 6・8
30	和して流れず	成松 正隆	S 61・3
31	時代に生きる(四)教職時代(1)	郷田 豊	H 9・9
32	よみがえれ学校	信州の教育と自治研究所	S 63・5
33	鉄塔 高校生への手紙	大石 實	H 7・3
34	村上智追悼録	村上智追悼録編集委員会	S 53・7
35	高校の現場から	堤 克彦	H 7・9
36	教壇日誌	北島 豊	
37	とどろき先生がやって来た	轟 寿男	H 8・2
38	教育八女	八女市教育委員会	S 48～
39	文章表現力を高める作文指導	篠崎 久躬	S 56
40	如月通信	谷口 和夫	H 4・7
41	継志堂物語	山口 光郎編	S 59
42	野球教本	森 秀勇	S 60
43	私の家庭科遍歴	東 昭子	H 3・7
44	自分を愛するということ	宮城 顥	
45	念仏者のしるし	大江 憲成	
46	他人さえもいとおしく	宮城 顥	
47	うちのこどうかしら	〃	
48	田舎っ子世にはばたく	古賀 通生	
49	きりんよ空を翔べ	友枝美栄子	H 11・10
50	爛漫の春	和田 重正	S 60・7
51	おやじの子育て	飯田 栄彦	H 8・11
52	和して流れず	都築 貞枝 聞書	S 61・3

53	努力の上に花が咲く	中村 八ル	S 47・9
54	私は女教師	原田 八重	S 57・9
55	永尾平八郎氏の教師退職に寄せて	はあととはあと	H 16・5
56	ぼたん雲	能間 哲子	H 18・3
57	心の杖	池田 隆蔵	H 12・12
58	ある女教師の軌跡	蒲池 昇子	H 18・5
59	心の子育てバイブル	高倉万友美	H 18・3
60	学校ここがおかしい	観世 広	H 9・12
61	校長先生のお話	永原三千年	H 5・5
62	家庭崩壊・学級崩壊・学校崩壊	松居 和	H 11・7
63	信じて待って寄りそって	高橋 茂雄	H 19・3
64	中学校ってどんなもの	村上 テル	H 19・4
65	この道泣いて笑って	藍原 益子	H 19・5
66	教えきし道	高根 敏臣	H 19・6
67	あなたはわが子にリベンジされる	郡司 刀	H 19・6
68	息子が中学生	塚崎 雄一	H 19・7
69	研究週報みつとも	末継敬一郎	H 19・9
70	廢墟に芽ぐむもの	有田 一寿	H 4・12
71	子どものいる風景	中山 真也	S 59・6
72	私の学校自慢・地域自慢	千葉市小学校編	H 6・11
73	目で見る教育 100年のあゆみ	文 部 省	S 47・11
74	子供たちは今	県青少年補導員協議会	S 60・4
75	校長先生のお話	永原三千年	H 5・5
76	教育無限	大塚 武男	S 63・12
77	訪韓記	武田 全	S 54・10
78	日本一の私の先生		H 10・7
79	はくぼくの線を消すとき	長野 正	S 62・8

80		長野 正	S 61・2
81	飛べひよどり	古賀 敬一	H 23・4
82	戦争中に学んだ教育を問う	秋間 達男	H 23・12
83	死んでも生き続ける	緒方 昭一	H 24・1
84	孫へ	〃	H 10・2
85	お風呂でゲームを	〃	S 52・10
86	お風呂でゲームを(増補改訂版)	〃	S 63・2
87	とどろき先生がやってきた	轟 寿男	H 8・12
88	春はブルーレースとともに	世良田静江 北原悌二郎	H 5・11
89	人をつくる	須郷 昌徳	H 24・12
90	先生悪い子が好きなの	野村 榮子	H 14・4
91	郷洗 7号・8号・9号復刻版	郷洗中学校	S33~35
92	小学一年一学期	遠藤 豊吉	S 56・6
93	こどものひろば	亀村 五郎 東 君平	S 59・2
94	野球部員演劇の舞台に立つ	竹島由美子	H 29・3
95	教育のこころ	久留米大学附属中・高校	H 23・6
96	学校の矜持	森下 計二	H 19・1
97	なんでバイバイするとやか?	後藤 宏	H 20・3

7 記念誌 螢雪思い出の学舎

1	あゝ五十年	八女中 23 回生	S 60・8
2	創立百周年記念誌	三河小学校	S 49・3
3	記念誌 創立百周年	笠原東小学校	S 53・3
4	母校の百年	長峰小学校	S 57・8
5	創立百周年記念誌	大淵小学校	S 49・3
6	母校の百年	飯干小学校	S 56・8
7	創立百周年記念誌	川崎小学校	S 48・3
8	創立百周年記念誌	福島小学校	S 49・3
9	創立七十周年記念誌	福島高校	S 58・6
10	悠遠 還暦を迎えて	福島高校七回生	H 9・8
11	矢留校志	矢留小学校	S 49・3
12	松操会誌	松操会	H 10・8
13	創立三十周年記念誌	西日本短期大学附属高等学校	H 3・10
14	創立百周年記念誌	御井小学校	S 50・10
15	卒業生名簿	下辺春小学校	S 53・10
16	卒業生名簿	北山小学校	S 52・10
17	串毛小学校の思い出	串毛小学校	S 53・3
18	高巢 風雪百年	高巢小学校	S 55・3
19	八女我がまほろば	八女中 36・高第 1 回生	H 10・10
20	くろつち	八女農業高校	S 58・3
21	創立百周年記念誌	下庄小学校	S 55・5
22	学而会 五十周年記念誌	小倉師範学校	H 3・11
23	卒業生名簿	下辺春小学校	S 53・10
24	木屋百年	木屋小学校	S 53・4
25	校舎改築記念誌	福島中学校	H 1・6

26	創立六十周年記念誌	大牟田高等学校	S 56・5
27	歷程 大淵小学校百二十三年のあゆみ	大淵小学校	H 9・3
28	卒業写真アルバム	大淵小学校	H 2・12
29	開校記念アルバム	枝折小学校	H 9・3
30	創立百周年記念誌	〃	S 50・3
31	創立六十周年記念誌	八女津学園	S 58・
32	創立百周年記念誌	久木原小学校	S 63・11
33	母校の百年	渡内小学校	S 54・
34	文集ともがき	旧制三瀬中学校 5 回生	S 57・2
35	創立六十周年記念誌	黒木高等学校	S 61・6
36	創立百周年記念誌	剣持小学校	S 51・3
37	創立百周年記念誌	中広川小学校	H 9・3
38	校舎改築記念誌	見崎中学校	H 4・5
39	御井町誌	御井小学校	S 61・2
40	創立七十周年記念誌	八女工業高等学校	H 2・11
41	五十年史	〃	S 46・11
42	躍進勇励 創立八十周年記念誌	〃	H 12・10
43	八工野球三十年	八女工業高等学校野球部	S 53・6
44	鶯西ものがたり	鶯西小学校	H 14・1
45	卒業写真集	鶯西小学校	H 15・
46	黒高野球	黒木高等学校野球部	H 2・6
47	一蓉会 50 年のあゆみ	久留米医大予科一廻生	H 11・9
48	創立七十周年記念誌	八女高等学校	S 55・5
49	上妻小学校沿革誌	上妻小学校	S 60・8
50	伝習館剣道部史	伝習館剣道部史刊行会	S 53・10
51	福島高校七十年史	福島高校同窓会	S 56・9
52	七十周年記念誌	八女農業高等学校	S 46・3

53	創立百周年記念誌	御井小学校	S 50・10
54	松操会誌・会員名簿	松操会誌編集委員会	H 5・5
55	さよなら平野小学校	平野小学校	H 9・3
56	向陵 一高百年記念	一高同窓会	S 49・10
57	向陵 一高百三十年記念	〃	H 16・10
58	足音を高めよ	東大8B会	H 15・7
59	創立百周年記念誌	善導寺小学校	S 63・11
60	創立百周年記念誌	荒木小学校	S 63・4
61	福島高校 31 年卒 35 周年記念誌	福島高校	H 4・1
62	〃 45 周年記念誌	〃	H 13・12
63	創立百周年記念誌	篠山小学校	S 58・11
64	還暦記念同窓会誌	福島中学校第三回卒業生	H 6・3
65	創立百周年記念誌	草野小学校	S 61・3
66	北川内中閉校記念誌	北川内中学校	H 12・3
67	創立百周年記念誌	山本小学校	S 61・11
68	創立 30 周年記念八筑看護学 2000	八女筑後看護専門学校	H 13・3
69	県中 40 年のあゆみ	福岡県中学校校長会	H 1・3
70	久留米高専 40 年誌	久留米高専	H 17・2
71	橘蔭の古里	伝習館高校	S 54・11
72	卒業写真アルバム	福島高等学校	H 16・3
73	あゝ紅の血は燃ゆる	八女中 34・35 回生	H 4・8
74	卒業記念文集	水洗国民学校	
75	久留米高専 40 年誌	久留米工業高等専門学校	H 17
76	黒木高 80 周年・輝翔館中閉校記念誌		H 17・7
77	創立五十周年記念誌	塩原幼稚園	H 18・2
78	平井新先生追悼文集(からたち)		H 17・2
79	福島高校 31 年卒 45 周年記念誌		H 13・12

80	もちの木福島高校卒業アルバム集		H 16・3
81	王丸教授開講三十周年記念誌		S 36・5
82	明善校九十年史		S 54・4
83	創立百周年記念誌	東京家庭学校	H 13・4
84	20周年記念誌	久留米大学医学部 動物実験センター	H 2・1
85	25周年記念誌	〃	H 7・1
86	30周年記念誌	〃	H 12・9
87	創立九十周年記念誌	八女高等学校	H 11・3
88	閉校記念誌	東山小学校	H 14・3
89	閉校記念誌	下横山小学校	H 14・3
90	閉校記念アルバム	上横山小学校	H 14・3
91	創立九十周年記念誌	福島高等学校	H 13・3
92	創立五十周年記念誌	見崎中学校	H 13・11
93	創立百周年記念誌	田代小学校	S 53・
94	創立百周年記念誌	光友小学校	H 16・12
95	卒業 50 周年記念誌	福島高校 31 年卒	H 18・8
96	閉校記念誌	星野村小野小学校	H 18・12
97	暁よする	八女高校第3回生	H 19・2
98	閉校記念誌	田代小学校	H 19・3
99	わが母校	高森町立河原小学校	S 57・7
100	創立六十周年総合誌	三瀨高等学校	S 58・11
101	目で見る八女高校の八十年	八女高等学校	S 63・5
102	七隈讃歌	福岡大学学術文化部会	H 19・12
103	知恵と正義と友情と	東大八B会	H 20・10
104	わがたましひの故郷は	詠帰会七周年記念誌	H 21・1
105	校舎改築記念誌	八女市立南中学校	H 3・5

106	明善五五会会誌		H 9・10
107	閉校記念誌内大臣	熊本県矢部町	S 55・3
108	久留米大学八十年史		H 20・8
109	I C U 3 期生	国際基督教大 3 期生	H 21・3
110	閉校記念誌	筑後北小学校	S 58・11
111	わが校の歩み 五十年史	市立南筑高校	S 48・3
112	創立 90 周年記念誌	八女工業高校	H 22・10
113	閉校記念誌	八女市白木小学校	H 23・3
114	ふるさとに生きる学苑歌集	椎窓 猛	H 23・6
115	創立百周年記念誌	福島高等学校	H 24・3
116	創立 110 周年記念誌	八女農業高校	H 24・10
117	小倉師範 19 期生卒業五十周年記念誌		S 55・9
118	久留米大学五十年誌 (別冊)	中村 昌弘	S 53
119	閉校記念誌	笠原小学校	H 26・3
120	閉校記念誌	大淵小学校	H 26・3
121	創立 80 周年記念誌	八女学院	H 16・2
122	創立 90 周年記念誌	八女学院	H 26・2
123	創立 110 周年記念誌	八女高等学校	H 30・10
124	塩原幼稚園		
125	上陽福祉会		
126	創立 70 周年記念誌	二ツ河保育園	R 3・8
127	創立 110 周年記念誌	福島高等学校	R 3・3
128	創立百周年記念誌	水洗小学校	S 53・11

8 記念誌 時代を乗り越えて今

1	八女医師会史 (第2号)	八女医師会	S 52・6
2	最近 10 年の歩み	西日本鉄道株式会社	S 43・12
3	八女電照菊と組合 40 年のあゆみ	八女市花卉園芸組合	H 7・10
4	あゆみ 十周年記念誌	筑後市シルバー人材センター	H 12・
5	10 周年記念誌	国際ソロプチミスト八女	H 8・8
6	水天宮椿会三十周年記念誌	水天宮講社椿会	H 14・12
7	結成 45 周年記念誌	八女ライオンズクラブ	H 15・2
8	35 年の歩み - 創立 35 年記念誌 -	八女専門店会	S 61・10
9	開設 30 周年記念誌 消防のあゆみ	八女地区消防組合八女消防本部	H 7・10
10	10 周年記念誌	グリーンパル・ゆう	H 14・12
11	軌跡 創立五十周年記念沿革誌	柳川山門歯科医師会	S 52・10
12	創立三十周年記念誌	八女市老人クラブ連合会	H 6・10
13	文連 30 年のあゆみ	八女文化連盟	S 60・10
14	35 年のあゆみ	久留米酪農協同組合	S 62・5
15	高良台 創立 30 周年記念	高良台分屯基地	H 8・4
16	技の道行 旧福岡県福島工業試験場 七十年のあゆみ(1925~1995)	福岡県工業技術 センター材料開発研究所	H 7・3
17	二十年のあゆみ	立花町文化連盟	H 13・2
18	歩いてきた道 創立五十周年記念誌	八女郡連合婦人会	H 13・3
19	Y E A のあゆみ 友情は大海を越えて	八女国際交流会(YEA)	H 15・3
20	恩師の米寿 私共の喜寿記念誌	昭 六 会	H 6・6
21	寿屋三十年の歩み	株式会社寿屋	S 53・8
22	防弘九州 20 年のあゆみ	防衛弘済会九州支部	S 62・3
23	八女歯科医師会沿革史第一編	大石 広人	S 52・4
24	戦没者と遺族の五十年	八女市遺族連合会	H 8・3

25	開校 40 周年記念誌	陸上自衛隊幹部候補生学校	H 6・4
26	商工名鑑やめ 1981	八女商工会議所	S 56・10
27	創立 30 周年記念誌	八女ロータリークラブ	H 12・12
28	商即戦	八女研学会	S 56・11
29	文連 40 年のあゆみ	八女文化連盟	H 7・11
30	同友 創立 40 周年記念誌	福岡県中小企業家同友会	H 15・8
31	歩みつづけて - 創立五十周年記念誌 -	福岡県都市婦人会連絡協議会	H 11・3
32	25 年のあゆみ	陸上自衛隊幹部候補生学校	S 55・3
33	高良台のあゆみ	航空自衛隊高良台分屯地	S 61・2
34	25 年のあゆみ	西部方面總監部付隊	S 55・12
35	30 年のあしあと	第 2 施設群第 306 タンク車中隊	S 56・3
36	久留米連隊配置 100 年 久留米駐屯地開設 45 周年記念誌	久留米駐屯地	H 9・11
37	高木病院 30 年史	高 邦 会	H 11・7
38	筑後の貨幣と小話集	筑後古銭研究会	H 9・8
39	福岡シティ銀行 80 年のあゆみ	福岡シティ銀行	H 16・8
40	福岡銀行 2004	福 岡 銀 行	H 16・7
41	創業五周年記念文集	那古井花やしき	H 6・11
42	創立 30 周年記念誌	宮崎市芸術文化連盟	H 13・3
43	芸術祭十五年史	文 部 省	S 36・11
44	“ 資料編	“	S 37・3
45	ステンドグラス川島政則の世界 (三)	川島 政則	
46	八女商工名鑑	八女商工会議所	H 7
47	50 周年記念誌	“	H 17・3
48	市制 50 周年記念写真集	大 川 市	H 17・3
49	ステンドグラス川島政則の世界 (四)	川島 政則	H 17・10
50	銅像 祇園太鼓	北九州青年会議所	S 40・7

51	福岡文化連盟 30 年史	福岡文化連盟	H 7・3
52	私の卒後 50 年	といち会	H 2・5
53	半世紀のあしあと	久留米市鳥類センター	H 17
54	平和伝えたい母達の願い	八女郡連合婦人会	H 17
55	光友ヴィクトリー 30 周年記念誌		H 18・1
56	50 周年記念誌	八女文化連盟	H 17・12
57	山川孝吉博士古稀祝賀	南 熊太	S 42・12
58	創立 40 周年記念誌	大川文化協会	H 18
59	流風餘韻	八女中 33 回生古稀記念誌	H 10・4
60	10 周年記念誌	八女広域シルバー人材センター	H 11・12
61	55 周年記念誌	やまう株式会社	H 13・1
62	20 周年記念誌	国際ソロプチミスト八女	H 18・9
63	上陽町閉町記念誌	上 陽 町	H 18・9
64	九州市民大学 20 年史		H 19・1
65	井手運送 50 周年記念誌	井手 郁夫	H 19・6
66	結成二十周年記念誌	真言宗大覚寺派青年教師会	H 20・2
67	五十年史	八女ライオンズクラブ	H 20・6
68	吉井町商工会誌	吉井町商工会	H 20・3
69	創立二十周年記念誌	県 老 連	S 59・5
70	創立 50 周年記念誌	八女青年会議所	H 21・5
71	津留誠一作品集	津留 誠一	H 13・2
72	創立八十周年記念誌あゆみ	久留米友の会	H 23・7
73	全日本愛瓢会 30 周年記念誌		H 17・1
74	20 周年記念誌	クリーンパルゆう	H 25・9
75	30 周年記念誌	八女福祉会	H 26・7
76	九州北部豪雨災害誌	八女消防本部	H 25・3
77	45 周年記念誌	八女ライオンズクラブ	H 15・2

78	五十年史	八女ライオンズクラブ	H 20・6
79	郡山地区保護司会のあゆみ	郡山地区保護司会	H 27・11
80	創立 30 周年記念誌	弥 栄 苑	H 28・7
81	平成 24 年九州北部豪雨災害記録誌	八 女 市	H 29・2
82	JA ふくおか八女 20 周年記念誌	福岡八女農業協同組合	H 28・11
83	素盞鳴神社獅子舞 150 年	広川町清楽茶屋	H 30・1
84	創立九十周年記念誌	八女筑後歯科医師会	H 30・3
85	伝道 50 周年記念誌	八 女 教 会	H 30・6
86	樋口画廊作品集 第 1 集	樋 口 画 廊	H 30・6
87	樋口和代画集	樋 口 要	H 27・9
88	柿原聰展図録	柿 原 聰	H 25・8
89	アグリス 30 年の歩み	株式会社アグリス	R 2・10
90	福岡県茶商組合設立 50 周年記念誌	福岡県茶商協同組合	R 3・3
91	葦の会 50 年の記録	葦 の 会	H 24・2
92	久留米医師会史		S 45・12
93	久留米市誌 上編・中編・下編		S 7・10
95			
96	九州の鉄道の歩み	国鉄九州総局	S 48・1

⑨ 資 料

1	食は東南アジアにあり	星野 龍夫	S 59・10
2	焼酎讃	鈴木 博	S 52・1
3	ティーロードー日本茶の来た道	松下 智	H 5・10
4	女の心菓子	千代 芳子	S 63・10
5	再現江戸総菜事典	川口はるみ	H 7・12
6	球磨焼酎二十九面相	末吉 駿一	H 11・10
7	つけもの風土記	酒井佐和子	S 44・12
8	東アジアの食文化探検	周 達夫	H 3・7
9	聞き書 福岡の食事	中村 征夫	S 62・2
10	〃 佐賀の食事	原田 角郎	H 2・11
11	長崎料理歳時記	小川雄一郎	H 11・5
12	麺・イモ・茶	NHK取材班	H 2・5
13	泡盛	沖 縄 県	H 8・10
14	あわもり	沖縄県立博物館友の会	H 3・3
15	羊羹資料館案内	村岡総本舗	H 8・10
16	肥前の菓子	〃	H 11・2
17	源氏の由可里	吉川冬季子	S 60・12
18	長崎の食文化	村山 元紀	H 6・4
19	ふるさととお菓子	蒸 気 屋	H 14・11
20	日本の菓子	亀井千歩子	H 8・8
21	まともな食べ物が食べたい	金丸 弘美	H 9・11
22	しにせの味の心	サンデー毎日編	S 46・5
23	華僑コネクション	樋泉 克夫	H 5・8
24	和白干潟の生きものたち	逸見 泰久	H 6・9
25	アジアルネサンス	角山 栄	H 7・2

26	琉球の風	陳 舜臣	H 4・9
27	福岡はなぜ元気か	毎日新聞福岡総局	H 12・9
28	スーパーラット	金丸 弘美	H 12・12
29	阿蘇グリーンストック	佐藤 誠	H 5・9
30	アジアの都市と建築	加藤 祐三	S 61・12
31	チョコリと鎧	池 明観	S 63・12
32	嬉野湯宿物語	古賀 敏明	H 2・8
33	徳之島の闘牛	松田 幸治	S 57・12
34	福岡県の植物	福岡植物友の会	H 3・6
35	世界の都市の物語7 ソウル	姜 在彦	H 4・7
36	光の街影の街	海野 弘	S 62・6
37	幕府挑発	伊牟田比呂多	H 12・12
38	中国民族誌	周 達生	S 55・6
39	臼杵石仏	賀川 光夫	H 7・5
40	走れ！ライター独立宣言	金丸 弘美	H 10・12
41	仮面と信仰	中村 保雄	H 5・4
42	九州の明治文化財	日本観光協会九州支部	S 43・10
43	日本のむらの百年	光山 俊直	S 42・12
44	ダイオキシン	宮田 秀明	H 11・3
45	鉄道のすべてがわかる事典	川島 令三	H 12・10
46	河童	大島建彦編	S 63・4
47	新しい住宅を求めて	藤岡 洋保	H 4・12
48	用と美	南日本新聞社編	S 41・2
49	歎異抄入門	本多 顕彰	S 39・7
50	福岡県の樹木	猪上 信義	H 10・11
51	水とエネルギーの循環経済学	田島代支宣	H 13・4
52	景德鎮陶磁芸術	江西美術出版社	H 5・5

53	物語の中世	保立 道久	H 10・11
54	世界都市再開発NOW	関西情報センター	H 1・7
55	放送—その過去・現在・未来	土屋 精作	H 7・3
56	「みやこ」という宇宙	園田 英弘	H 6・4
57	女がまちをつくる	市町村シンポジウム実行委員会	H 1・10
58	ムツゴロウが教える日本の起源	久光 教弘	H 7・3
59	アジアは街に訊け	市川 隆	H 6・11
60	暮らしに生きる竹	濱田 甫	H 8・12
61	さつま今昔	NHK鹿児島放送局	S 58・8
62	リゾートの思想	一条 真也	H 3・2
63	唯我独尊の国から	西日本新聞文化部	H 12・10
64	カンガルーの憂鬱	高田真理子	H 12・9
65	博多織と佐賀錦	西村 允孝	S 54・3
66	中国名勝旧跡事典2	中国国家文物事業管理局	S 62・3
67	まちづくり読本	延藤 安弘	H 2・5
68	「まさか、私が…」	武藤 俊之	H 13・11
69	都市空間の感性	柏木 博他	H 4・1
70	シーボルトの絵師	金子 厚男	S 57・3
71	広島県百名山	中島 篤巳	H 10・10
72	むらからの便り	末永 昌巳	H 5・3
73	トランスアーキテクチャー	菊池 誠	H 8・5
74	韓国がわかる 11人の視点	多田則明編	H 6・5
75	25人のなぐり込み美学	上田 恵子	S 62・1
76	戦後誌	朝日新聞西部本社	H 7・10
77	雲仙噴火の日々	小林松太郎	H 4・8
78	熊本城	藤岡 通夫	S 51・4
79	噴火と闘った島原鉄道	葦 書房 編	H 10・4

80			
81	熱烈オーエン大好きマンガ	夢本編集部編	H 4・7
82	スペインー生命の印象	松石 泉	H 4・4
83	諸国名所北斎と広重	榎崎 宗重	S 39・12
84	江戸の風呂	今野 信雄	H 1・2
85	習事十三箇條	干 宗左	S 32・11
86	東西の服装史	杉本正年他	S 60・4
87	美術館とは何か	大島 清次	H 8・6
88	博多館からミュージアムへ	上田 篤	H 1・3
89	かごしまの美術館	四蔵 典夫	H 8・9
90	仏教の勝利	梅原 猛	S 55・3
91	音の風景とは何か	山岸美穂・山岸 建	H 11・6
92	アジア読本台湾	笠原政治・植野弘子	H 7・8
93	匠の技とこころ	福島 建治	H 12・7
94	海のシルクロードとベトナム	日本ベトナム研究会議編	H 5・11
95	新説・日中古代交流を探る	いき 一郎	H 1・4
96	マダム貞奴	杉本 苑子	S 50・1
97	とっばすの風	宮崎 暢俊	H 6・10
98	理解することへの抵抗	加藤 典洋	H 10・10
99	水辺と都市	上田 篤	S 61・5
100	名前を探る旅	中村 尚樹	H 12・8
101	ウォーターフロント開発の手法	横内 憲久	S 63・5
102	モンゴル草原サイシンガ家人々	木村 哲行	H 6・3
103	中国古陶磁入門	中島誠之助	H 8・7
104	アダンの画帖	南日本新聞社	H 7・4
105	日本文化と八幡神	佐々木孝二	H 1・10
106	日本の近世	朝尾直弘編	H 3・6

107	サンアントニオ水都物語	ヴァーノン・G・ズンカー	H 2・4
108	新・韓国風土記第一巻	ソウル市(根の深い木)社編	H 1・8
109	子どもたちが見つけたありがとう	RKB 毎日放送ラジオ制作部編	H 12・10
110	日本人と美	佐山 道雄	S 45・11
111	地球環境時代のデザイン潮流	池亀 拓夫	H 9・11
112	海も天才である	中村 征夫	S 60・5
113	留学生が見た日本	岩男寿美子・萩原 滋	S 62・2
114	女性編集者	アリス・マクダーモット	S 59・10
115	ヴェネツィア	陣内 秀信	S 61・6
116	貧乏なクィンテット	たばたとしあき	H 10・8
117	スズメ百態面白帳	大田 真也	H 12・12
118	茶の世界史	角山 栄	S 55・12
119	ひも	道明新兵衛	S 38・3
120	倭人の絹	布目 順郎	H 7・2
121	イギリスのそよ風によって	矢木 信男	H 6・3
122	アジア読本ヴェトナム		H 7・11
123	長崎ピーストレイル	MUPながさき	H 7・7
124	みやざきの文学	宮崎県芸術文化協会	H 17・1
125	宗像の歴史と文化財	宗像市教育委員会	S 63・3
126	古代を考える太宰府	田村圓澄編	S 62・5
127	古代学最前線	中村 俊介	H 10・3
128	九州戦国合戦記	吉永 正春	H 6・11
129	玄界灘に架けた歴史	姜 在彦	S 63・5
130	天草キリシタン史	北野 典夫	S 62・4
131	天文館の歴史	唐鎌 祐洋	H 4・9
132	北九州 - 縄文より維新まで -	箭内健次編	S 43・11
133	書紀と九州王朝	吉田 舜	H 4・6

134	ザビエルとヤジロウの旅	大住 広人	H 11・8
135	異国と九州	地方史研究協議会	H 4・10
136	遙かなる奴国	藤島 正之	S 63・7
137	歴史的文化遺産が生きるまち	石橋全国連絡会議	H 7・9
138	歴史の町並み再発見 九州・沖縄・山口・島根	読売新聞西部本社編	H 5・9
139	日本の中の朝鮮文化	金 達寿	S 63・4
140	古代海人の謎	田村圓澄・荒木博之編	H 3・3
141	甦る中世の博多	朝日新聞福岡総局編	H 2・8
142	博多町人と学者の森	〃	H 8・2
143	海の正倉院沖の島	武藤 正行	H 5・9
144	それは九州に始まった1～3	テレビ西日本	H 1・6
145	鴻臚館の時代	朝日新聞福岡総局編	S 63・5
146	続・邪馬台国研究の死角	次郎丸達朗	H 5・9
147	海寇うみのぞく上・下	和田 武久	H 3・8
148	バテレンと宗麟の時代	加藤 知弘	H 8・11
149	九州と日本社会の形成	横山浩一・藤野保	S 62・1
150	那覇の空間構造	吉川 博也	H 1・6
151	図説琉球王国	高良倉吉・田名真之	H 5・2
152	倭国ここに在り	吉留 路樹	H 3・11
153	五島史と民俗	平山 徳一	H 1・10
154	坊津	森 高木	H 4・4
155	首里城入門	首里城研究グループ	H 1・9
156	九州の風土と歴史	川添昭二・瀬野精一郎	S 52・8
157	しものせき市制百年	毎日新聞下関支局編	H 1・3
158	九州王朝一元論	吉田 舜	H 5・9
159	まほろばの邪馬壹国	光朝和辰明	H 8・2

160	元寇物語	田中 政喜	S 45・8
161	近世初期天草キリシタン考	今村 義孝	H 9・5
162	史都平戸	松浦資料博物館	S 37・1
163	筑紫ものがたり	朝日新聞社	S 42・8
164	カクレキリシタンの信仰世界	宮崎賢太郎	H 8・11
165	九州の精神的風土	高松 光彦	S 55・12
166	近世に生きる女たち	福岡地方史研究会	H 7・5
167	沖縄の年中行事	崎原 恒新	H 1・5
168	沖縄の民俗とそのルーツ	窪 徳忠	H 2・9
169	沖縄地名考	宮城 真治	H 4・1
170	琉球王朝史	新里 金福	H 5・1
171	新版・琉球の時代	高良 倉吉	S 55・12
172	対馬物語	田井友季子	H 3・5
173	対馬の歴史探訪	永留 久恵	S 57・9
174	対馬の庶民誌	城田 吉六	S 58・12
175	対馬の地名とその由来上・下	藤井 郷石	S 62・1
176	古代日本と対馬	永留 久恵	S 60・12
177	境界の異俗	高澤 秀次	H 1・12
178	赤米伝承	城田 吉六	S 62・9
179	わが町の歴史小倉	米津 三郎	S 56・7
180	長崎発・歩く考える	片寄 俊秀	H 5・8
181	海外情報と九州	姫野 順一	H 8・8
182	長崎歩く考える	片寄 俊秀	S 60・5
183	長崎発・町並み素描る旅	〃	H 5・8
184	蘭学の背景	石田 純郎	S 63・5
185	九州キリシタン風土記	濱名 志松	H 1・6
186	煙を星にかえた街	四方 洋	H 3・9

187	紫川マイタウン・アイリバー物語	北九州市	H 8・10
188	「鉄の都」は甦る	吉田 宏	H 2・11
189	読む絵巻小倉	米津 三郎	H 2・10
190	北九州市の歴史的建造物	北九州市	H 1・9
191	北九州彩時記 夏季編	〃	H 2・8
192	〃 冬季編	〃	H 1・12
193	〃 春季編	〃	H 2・5
194	長崎居留地 一大いなる遺産	長崎市	H 1・3
195	福岡城物語	朝日新聞福岡本部	H 8・5
196	古代海人の謎	田村圓之・荒木博之	H 3・3
197	博多商人とその時代	武野 要子	H 2・7
198	秀吉と博多の豪商	工藤 澁也	H 9・11
199	はかた彩時記	古川 忠	S 58・7
200	博多大正世相史	井上 精三	S 62・8
201	博多山笠	プラニング秀巧社	H 6・6
202	ふるさと歳時記	福岡市	H 5・3
203	博多織を識る	畑野与惣治	S 45・1
204	筑前の街道	近藤 典二	S 60・4
205	ハカタはかた	朝日新聞福岡総局	S 44・10
206	海が語る古代交流	〃	H 1・12
207	古代の都市博多	〃	H 1・4
208	博多ことば	江頭 光	H 10・6
209	江戸の博多と町方衆	朝日新聞福岡総局	H 7・5
210	福岡の歴史	福岡市	S 54・10
211	福岡の文化 30 年	〃	
212	宝満山歴史散歩	森 弘子	H 12・5
213	現代紀行文学全集 南日本篇	志賀直哉 } 監修 佐藤春夫 } 川端康成 }	S 35・6

214	日向灘沿岸をゆく	三又 喬	H 9・7
215	ふるさと－史跡と風土をたずねて－	熊本市	S 55・8
216	新熊本文学散歩	山崎 貞士	H 6・10
217	油山へ行こう	城南区	H 8・8
218	博多歴史散歩	白石 一郎	S 48・9
219	熊本歴史散歩	荒木 精之	S 47・9
220	宮崎県の歴史散歩	宮崎県高等学校社会科学研究会	H 2・6
221	福岡県の山歩き	福岡山の会	H 12・4
222	九重山博物誌	梅木 秀徳	H 9・8
223	福岡県地名考	梅林 孝雄	H 12・11
224	島原街道を行く	松尾 卓次	H 9・10
225	九重の自然と歴史	松本 徂夫 他著	H 10・6
226	かごしま散歩画帖	オフィス亜徒夢	H 7・4
227	ぶらり宮崎散歩道	楠山 永雄	H 8・3
228	九州の温泉と山	足利武三・井上優	H 4・4
229	沖縄県の歴史散歩	沖縄歴史研究会	S 52・3
230	沖縄歴史散歩	大城 立裕	S 55・12
231	台北歴史散歩	荘 民 鵬	H 3・4
232	九州河童紀行	九州河童の会	H 5・4
233	福岡県の歴史散歩	福岡県高等学校歴史研究会	H 1・11
234	全国名湯・秘湯めぐり	望月 一虎	H 8・9
235	福岡市・北九州市はいま	落合英秋・森脇喜一	H 5・5
236	おとなの遠足	勝瀬志保・竜田清子	H 11・4
237	大分県の山歩き	吉川 満	H 1・6
238	博多文学案内	原田 種夫	S 47・5
239	奄美・もっと知りたい	神谷 裕司	H 9・7
240	新しいまりの歴史散歩	伊万里市郷土研究会	S 51・11

241	柳川と筑後路	角田 嘉久	S 52・7
242	北九州の山と自然	帆柱自然公園愛護会	H 5・10
243	福岡を歩く	石井忠他著	S 60・5
244	長崎県の山歩き	林 正康	S 62・11
245	福岡・佐賀県の山歩き	吉川 満	H 4・11
246	ここにほんとうの空を	小台三四郎	S 41・6
247	亭主の居場所	深田 俊祐	H 12・4
248	博多んもんの詩「山笠生命の男たち」	大庭 宗一	H 4・4
249	河伯洞発掘	鶴島 正男	S 60・12
250	うたがき炭鉱記	伊藤 時雨	H 9・2
251			
252	玄海の島々	野間 吉夫	S 48・9
253	福岡鉄道風土記	弓削 信夫	H 11・1
254	私の筑豊物語	玉井 政雄	S 55・7
255	鷗外「小倉左遷」の謎	石井 郁男	H 8・3
256	美の回路—九州のかたち探訪—	藤本 健八	H 7・10
257	光溢れる南の島よ	中村 地平ほか	
258	日本随筆紀行 宮崎・鹿児島・沖縄		H 63・6
259	炭坑節物語	深町 純亮	H 9・11
260	九州山地に生きる	朝日新聞社編	H 6・3
261	島の時間	赤瀬川原平	H 5・8
262	九州芸術風土記	劉 寒吉	S 58・3
263	日本の民俗 福岡	筑紫 豊	S 49・4
264	〃 佐賀	市場直次郎	S 47・4
265	火の神・山の神 九州の俗面考	高見 乾司	H 7・8
266	九州の工芸地図	後藤 完一	S 54・3
267	市川のまつり	矢俣九州男	S 53・9

268	西日本民俗博物誌 <上> <下>	谷口 治達	S 53・8
269	文学碑の旅 西日本	丸山 豊ほか	S 60・4
270	南九州の仮面	黎明 館	H 4・1
271	画文集新博多風土記	福岡文化連盟	S 58・5
272	西日本風土記	西日本新聞社	H 4・6
273	平和の礎Ⅴ～Ⅷ シベリア強制抑留者が語り継ぐ苦労	平和祈念事業特別基金	H 7～
274	平和の礎Ⅴ～Ⅷ 海外引揚者が語り継ぐ苦労	〃	H 7～
275	平和の礎Ⅴ～Ⅷ 軍人軍属短期在職者が語り継ぐ苦労	〃	H 7～
276	木下邦子展	木下 邦子	S 57・5
277	俳句の上達法	鷹羽 狩行	S 63・1
278	俳句鑑賞入門	永田 義直	S 58・5
279	俳句用語の基礎知識	村山古郷・山下一海	S 59・1
280	俳句上手になる本	楠本 憲吉	S 60・7
281	俳句入門	秋本不死男	S 46・11
282	現代俳句 上巻	山本 健吉	S 27・6
283	真理は生活にあり	谷口 雅春	S 53・10
284	天の手紙 (上) (下)	恒岡 一郎	S 29・4
285	日蓮正宗・方便品寿量品講義	戸田 城聖	S 33・2
286	回天の聖者	李 祥昊	S 61・5
287	御書と四条金吾	池田 大作	S 50・5
288	続聚秀録	佼成出版社	S 40・11
289	雄飛ヶ丘の靖春	瀬尾 一彦	H 5・5
290	他人さえもいとおしく	宮城 顕	H 13・10
291	自分を愛するという事	〃	H 12・10

292	「朝の読書」がもっと楽しくなるアイデア集	穴見 嘉彦	H 13・10
293	念仏者のしるし	大江 憲成	H 16・10
294	子育てのQ & A	大城 清	H 12・12
295	浄土の歎き (上) (中)	平野 修	H 10・7
296	仏説無量寿経 上巻・下巻	古田 和弘	H 16・10
297	東洋陶磁名品展	日本経済新聞社	S 56・10
298	20世紀の巨匠たち	フジカワ画廊	S 62・3
299	ルノワール印象派の巨匠たち展	福岡市美術館	S 61・11
300	茶陶高取	福岡市教育委員会	S 56・10
301	田川市美術館 10年のあゆみ FUKUOKA STYLE	田川市美術館	H 13・10
302	Vol.1 水辺都市		H 3・1
303	Vol.2 北九州ルネサンス海峡物語		H 3・6
304	3 朝鮮通信使		H 3・12
305	4 都市の住まい方		H 4・4
306	5 歴史の町並み PART 1		H 4・8
307	6 屋 台		H 5・1
308	7 博多と堺		H 5・7
309	8 ものづくり風土記		H 5・12
310	9 博多祇園山笠		H 6・6
311	10 文学のある風景		H 6・12
312	11 アジアの市場+九州の市場		H 7・5
313	12 西海の捕鯨		H 7・10
314	13 歴史の町並み PART 2		H 8・1
315	14 石に聞く		H 8・5
316	15 肥前の磁器		H 8・8
317	16 有明海大全		H 8・12

318	17 九州温泉国		H 9・3
319	18 博物館へ行こう		H 9・6
320	19 九州茶のふるさと		H 9・9
321	20 創刊 20 号記念 いま、福岡		H 10・1
322	21 九州と南蛮文化		H 10・4
323	22 陶器いろいろ		H 10・7
324	23 焼酎礼賛		H 10・10
325	24 山頭火がゆく		H 11・1
326	25 九州芸能集成		H 11・5
327	26 洋学の九州		H 11・9
328	27 九州シネマパラダイス		H 12・4
329	Vol.28 食の王国・九州		H 12・6
330	29 美術館へ行こう		H 12・10
331	30 九州の神々		H 13・2
332	私の博物誌	赤間関書房	S 50・4
333	英彦山	読売新聞西部本社	S 50・9
334	下関の方言	冨田 義弘	S 52・4
335	なにわ職もよう	朝日新聞大阪本社	
336	商は笑なり	毎日新聞大阪本社	
337	韓国からの便り	倉橋 葉子	
338	日本破局のシナリオ	古賀 一成	
339	日韓共生への道	安 光浩	
340	榎橋渡伝		S 57・5
341	幾山河	瀬島龍三回想録	H 7・9
342	文協おおかわ 20 ～	大川文化協会	H 10～
343	輝く サードエイジへ	九州シニアライフアドバイザー協会	H 20・6
344	企業トップ 32 人のこの一冊	住友生命	H 7

345	日本建築雑作図案	金子 清吉	T 15・4
346	長崎大水害体験記	長崎県印刷工組	S 57・7
347	日本の鍔金いものの形	麻生美術工芸館	H 8・11
348	図録 津留誠一	津留 誠一	H 17・7
349	豊田勝秋	中牟田佳彰	S 52・4
350	檀	沢木耕太郎	H 12・8
351	檀一雄作品集	長野 秀樹	H 8・5
352	人間 檀一雄	野原 一夫	S 61・1
353	檀一雄追悼 特集号	ポリタイア	S 51・7
354	底鳴る潮 青木繁の生涯	渡辺 洋	S 63・9
355	活佛の微笑	水原 渭江	H 25・5
356	佛者の眼	〃	H 10・2
357	琴窓夜話	〃	S 25・10
358	五臓元気で認知症知らず	賀久 一郎	H 27・9
359	石橋正二郎 情熱の足あと	西日本新聞社	H 21・12
360	書学遊心	武藤 佳峯	H 28・
361	夏目漱石 周辺人物事典	原武 哲他	H 26・8
362	子や孫に伝えたい水と食料の話	松尾 宏	H 29・6
363	御墨図録	蔵 萬 堂	H 29・11
364	抜萃のつづり その76・77	株式会社熊平製作所	H 30・1
365			
366	石橋正二郎 遺稿と追想	プリヤストーンタイヤ(株)	S 53・9
367	抜萃のつづり その78	株式会社熊平製作所	H 31・1
368	道元明明百草の夢	花岡 光男	
369	抜萃のつづり その80	㈱クマヒラホールディングス	R 3・1
370	花の姿	池坊 専威	S 18・11
371	花心粧	正法地秀圃	S 29・10

372	日本花道史	西堀 一三	S17・1
373	茶 花	西堀 一三	S24・3
374	茶道の歴史	桑田 忠親	S42・8
375	茶の湯おしえ草	上田 宗福	S46・1
376	花	西山松之助	S53・10
377	日本の生花	西堀 一三	S42・4
378	花のこころ	山本 静山	S42・6
379	暮らしの中の花	工藤 和彦	S36・1
380	いけばなに生きた人びと	吉村 貞司	S48・11
381	花伝書	勅使河原蒼風	S54・11
382	茶花図譜	西堀 一三	S38・2
383	茶・花・香	芸能史研究会	S45・8
384	花のこころ	中山 文甫	S49・3
385	いけ花の初め	西堀 一三	S43・10
386	古典の花	松田 修	S51・11
387	花の心	湯川 制	S46・6
388	利休の花花	湯川 制	S45・5
389	いけばな人物史	北條 明直	S54・2
390	いけばな公論 創刊号		S54・3
391	抜萃のつづり その81	㈱クマヒラホールディングス	R4・1
392	茶 茶 茶	南 廣子	H2・7
393	茶のすがた	千 宗 室	S53・4
394			
395			
396			
397			
398			

自分史資料

1	自分史を書く喜び	藤田 敬治	H 18・11
2	三代記年表	藤田 敬治	H 18・11
3	自費出版実践録	林 克利	H 6・12
4	自費出版体験集	神戸 康	H 8・2
5	世界で一冊の本	村田 裕利	H 7・2
6	20世紀の回顧	新風書房	H 13・6
7	自分史ノート	新風書房	H 11・2
8	現代のエスプリ自分史	至文堂	H 7・9
9	九州・宮崎と出版	田中 薫	H 16・4
10	書籍と活字	田中 薫	H 11・3
11	自費出版	田中 薫	H 13・3
12	書籍と紙	田中 薫	H 15・5
13	メディア表現とパブリケーション教育	田中 薫	
14	創刊号に見る戦後日本の雑誌	田中 薫	
15	名文を書かない文章講座	村田喜代子	H 12・10
16	自分史 その理念と試み	色川 大吉	
17	ひとびとの声が聞こえる	日本自費出版ネットワーク	H 20・7

人生史サークル ^{こうろ}黄櫨の会 よりご案内します

105歳で亡くなられた日野原重明(聖路加国際病院)先生は75歳から第3の人生がスタートすると宣言され、高齢社会における望ましい高齢者の生き方を実践、提唱されました。

又、麻生渡前福岡県知事は人生百年時代は90歳まで働き社会に役立たなければならぬ。そのためには、若い時学んだ知識では新しい社会に対応できない。18才、50才、70才、3回大学に行ったつもりで新しい知識を学び直す必要があると、生涯学習の重要性を述べておられます。

私たちはせっかくなつかんだこの貴い人生を更に充実したものにしようと、夢と希望と責任感をもって頑張っています。

幾つになっても衰えぬ学習意欲とチャレンジ魂で、老いて朽ちぬ花を咲かせ、一度きりの人生を完全燃焼したいものです。

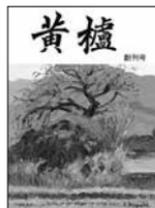
サークル名は①黄櫨は櫨の漢名(昭和初期、筑後地方は木ろうの産地でした)②後路はこれまで歩いてきた路③行路は今後進む路④第二の人生も櫨紅葉のようにもう一花咲かせたいという願いをこめています。皆様のご入会歓迎します。

代表世話人 松 尾 文 郎

- 受講会員**—受講も投稿もできます。年会費 12,000 円。
会誌代を含む。
 - 投稿会員**—遠方か都合で受講できない人は、投稿のみすることができます。
会誌代を含めて年会費 10,000 円。
 - 購読会員**—一年 3 回、会誌発行毎に 1 冊お送りします。年会費 5,000 円。
 - 賛助会員**—本会の趣旨に賛同され、会誌を購読して頂く方です。
会誌発行毎に 1 冊ずつお届けします。年間 5,000 円以上。
会費の送金先(郵便局 17480-38371211 コウロノカイ)
- ★お尋ねは事務局 〒834-0025 八女市祈祷院 563 ☎0943-24-2111 東迄どうぞ。

黄櫨

人生史サークル 黄櫨の会



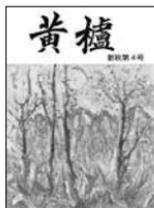
平成9年8月



平成9年12月



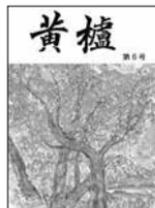
平成10年5月



平成10年9月



平成11年1月



平成11年7月



平成11年11月



平成12年3月



平成12年9月



平成13年3月



平成13年8月



平成13年12月



平成14年3月



平成14年8月



平成14年12月



平成15年4月



平成15年8月



平成15年12月



平成16年4月



平成16年8月



平成16年12月



平成17年4月



平成17年8月



平成17年12月



平成18年4月



平成 18 年 8 月



平成 18 年 12 月



平成 19 年 4 月



平成 19 年 8 月



平成 19 年 12 月



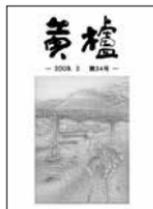
平成 20 年 3 月



平成 20 年 8 月



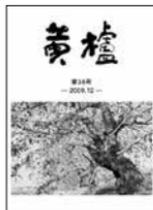
平成 20 年 12 月



平成 21 年 3 月



平成 21 年 8 月



平成 21 年 12 月



平成 22 年 3 月



平成 22 年 8 月



平成 22 年 12 月



平成 23 年 3 月



平成 23 年 8 月



平成 23 年 12 月



平成 24 年 3 月



平成 24 年 8 月



平成 24 年 12 月



平成 25 年 3 月



平成 25 年 8 月



平成 25 年 12 月



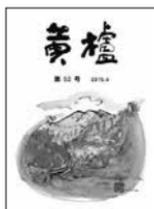
平成 26 年 5 月



平成 26 年 8 月



平成 26 年 12 月



平成 27 年 3 月



平成 27 年 8 月



平成 27 年 12 月



平成 28 年 4 月



平成 28 年 8 月



平成 28 年 12 月



平成 29 年 4 月



平成 29 年 8 月



平成 29 年 12 月



平成 30 年 4 月



平成 30 年 8 月



平成 30 年 12 月



平成 31 年 4 月



令和元年 8 月



令和元年 12 月



令和 2 年 4 月



令和 2 年 8 月



令和 2 年 12 月



令和 3 年 4 月



令和 3 年 8 月



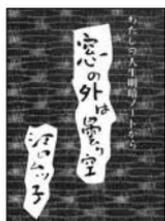
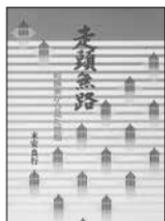
令和 3 年 12 月



令和 4 年 4 月

黄櫨叢書

1	走頭無路	未安 良行	H 8・4
2	八女の四季	平田 友武	H 9・4
3	人生史	藤島 美子	H 11・1
4	私は接ぎ木だった	未安 良行	H 11・2
5	ラーメン一代	原野ツタ子	H 11・10
6	大地が友だち	馬場 久夫	H 12・11
7	小林真一物語	堺 孝幸	H 13・8
8	あなたとわたしの人生誌	武藤和平・月足美智子	H 14・6
9	80年の傘の下	山村知世夫	H 15・1
10	雪間の草	吉泉 恒徳	H 16・10
11	窓の外は曇り空	江口ムツ子	H 17・5
12	わが青春に食いなし	高橋甲四郎	H 17・5
13	海碧き島よりふるさとへ	倉ノ下和代	H 17・10
14	樹陰流れる儘に	松延 幸子	H 18・3
15	黄櫨の旅 はぜの実	野中 勝美	H 17・12
16	黄櫨の旅 感じるままに	山崎 陽子	H 17・12
17	ほしの残照	山岸 良之	H 18・4
18	八女の方言歳時記	郷田敏男・梅本光男	H 18・12
19	昭和ひと桁走り書き	堺 孝幸	H 21・4
20	警 鐘	若杉 繁喜	H 22・2
21	江崎山脈	松尾 文郎	H 22・11
22	時を刻んで	平島 格	H 24・10
23	松田さん八女を歩く	福原 信彬	H 25・11
24	黄櫨 50号までの編集後記その足どり手帳	椎窓 猛	H 26・12
25	自分史短歌集 無名草花	吉泉 恒徳	H 27・2
26	句集 ひこばえ	吉泉 守峰	H 28・4
27	坂田力自選短歌集	稲光にしき	R 元・8
28	夢でない百歳の同窓会	林 栄一	R 2・7
29	自分史 母国祖国	吉泉 恒徳	R 2・8





■ 人生史サークル黄櫨の会沿革

- 平成 9年(1997) 4月 発会
 11年(1999) 11月 国務大臣表彰
 16年(2004) 8月 黄櫨20号発刊
 17年(2005) 1月 自分史図書館開館
 26年(2014) 8月 黄櫨50号発刊
 27年(2015) 1月 年賀本スタート
 29年(2017) 1月 人生史8020スタート
 29年(2017) 4月 発会20年 黄櫨58号発刊
 29年(2017) 11月 福岡県文化団体連合会表彰
 29年(2017) 12月 黄櫨60号発刊 八女方言かるた制作
 令和 3年(2021) 4月 黄櫨70号発刊



自分史・郷土出版物の収集展示にご協力下さい



黄櫨の会では平成17年、筑後市に郷土関係出版物や自分史・戦記などを収集展示する自分史図書館を開館しました。

丹精こめた自費出版物は発行部数も少なく、時間と共に消えてゆく運命にあります。

自分史は個人の記録にとどまらず、自然、風土、暮らし、風化されつつある戦争体験など、大切なことがたくさん収録されています。また、その本でしか知ることのできない事柄が記録されており、地方の教育・文化・経済史としても、時間と共に輝きを増してきます。

皆さんの大切な人生を綴った自分史や郷土関係の出版物がありましたら、ぜひともご惠贈頂き、後世のお役に立てるようご協力下さい。